

分野	専門分野	科目	看護学概論	単位	1	時間数	30
学年	1 年	時期	前期	講師名	丸山 友子		
科目概要	看護学概論では、看護とは何か、看護師とはどのような職業なのかを学ぶ。また、看護の基本となる姿勢や方法、何が看護であって、何が看護ではないのかなどの基礎的な看護の考え方を学ぶ。そのために思考の中核をなす、人間、健康、環境、看護の基本的な考えについて学び、理解を深める。チーム医療の一員である看護師の役割と機能について学ぶ。また、看護倫理とは何かについて学び、知見を深める。						
科目目標	看護の概念を理解し、看護の位置づけと看護の役割の重要性を理解する。 1. 看護の概念を理解する。 2. 看護の対象を理解する。 3. 看護の独自性・専門性を追求し、理解する。 4. チーム医療の中で看護の果たす役割を理解できる 5. 社会においてサービスとして提供される看護について理解を深める。 6. 医療・看護をめぐる倫理的原則を理解し、どのように取り組むべきかを学ぶ。						
回数	テーマ	学習内容					
1	看護の対象の理解 第2章	1. 人間の「こころ」と「からだ」を知ることの意味 2. 生涯発達しつづける存在としての人間の理解 3. 生活を営む存在			① 看護の視点で「生活する」ということはどういうことか ② 生活の4つの側面	講義 GW	
2					① 生涯発達理論を知る ② 生きていくこととストレス、ストレス理論 ③ こころの危機と理論	講義 GW	
3	看護の概念 第1章	1. 看護とは何か 2. 看護の定義 3. 看護モデル			① 看護実践のシミュレーション ② 看護実践に内在する要件 質の保証に欠かせない要件 ② 看護の定義	講義 GW	
4							
5	健康状態と生活 第3章	1. 健康のとらえ方 2. 健康に影響する要因 3. 社会の変遷と健康観の変化 4. 健康の位置づけの変化 5. 統計からみる生活と健康 6. 健康とセルフケア (1)健康に影響する因子(生活習慣病) (2)保健行動 (3)健康増進への支援			① 健康の定義 ② 健康に関わる宣言 ④ 健康概念の拡大 ⑤ 障害の捉え方	講義	
6					① 健康に影響する要因 ② 統計からみる生活と健康、健康とセルフケア		
7	看護の提供者 第4章	1. 看護の機能と役割 1) 看護師の基本的な役割 2) 看護独自の機能 2. 看護の独自性とは・専門性とは 1) 看護業務：看護であるもの、看護でないもの 2) 専門職としての看護 3) 保健師助産師看護師法 4) 看護の展望と課題			① 日本の看護・看護教育の変遷 ② 看護基礎教育制度 ③ 看護職の就業場所	講義	
8					① 看護の専門性(専門、認定、看護管理者、大学院教育、特定行為) GW 発表、DVD		

9	看護における倫理 第5章	1. 現代社会と倫理 2. 看護倫理 1) 患者の権利とインフォームドコンセント 2) 患者の意思決定と支援と守秘義務 3) 現代医療における 3. 意思決定支援と守秘義務	① 倫理とは ③ 倫理の歴史的経緯 ④ 倫理的課題	講義
10			看護実践の中の倫理的課題	
11			意思決定支援、代理意思決定 守秘義務と個人情報の保護	
12	看護提供のしくみ 第6章	1. サービスとしての看護 2. 看護サービスの提供の場 1) 医療施設による提供の場 2) 地域における看護 3) 継続看護 3. 看護をめぐる制度と政策 4. 看護サービス管理	①看護サービスとサービス提供者 ②多職種連携 ③看護サービス提供の場	講義
13			①法制度と看護政策 ②看護サービスの管理	
14	看護理論	1. ナイチンゲール 2. ハンダーソン 3. その他の理論家	ナイチンゲール「看護覚え書」 ハンダーソン「看護の基礎となるもの」	GW発表 講義
15				
テキスト		系統看護学講座 看護学概論 医学書院 フローレンス・ナイチンゲール 看護覚え書 現代社 ヴァージニア・ハンダーソン 看護の基本となるもの 日本看護協会出版会		
参考書		小林富美栄 現代看護の探求者たち 日本看護協会出版会 黒田裕子 やさしく学ぶ看護理論 日総研出版 都留伸子訳 看護理論とその業績 医学書院		
自己学習への指針		講義は資料を中心に行うので、毎時毎にテキストに戻って予習・復習を行うこと。 看護理論に関する二次資料は、たくさんあるので自分にあった資料を読んでみる。 授業は学問の入り口でしかないので、常に主体的に学習をしていくことが期待される。		
評価方法		参加度、レポート、単位認定試験		

分野	専門分野	科目	基礎看護学方法Ⅰ (安全を守る技術)	単位	1	時間数	15
学年	1 年	時期	前期	講師名	石井 朋子		
科目概要	基礎看護技術とは何か、看護専門職としての基本的な考え方を学ぶ。看護技術の基盤となる医療安全の確保と患者が過ごす病床環境の調整、生命を守るために必要な感染予防技術の原則を学ぶ。						
科目目標	1. 看護技術の特徴と技術を適切に実践するための行動が理解できる。 2. 医療安全の確保のための技術が理解できる。 3. 生活環境を調整する基本的技術と病床環境を整える技術を理解する。 4. 感染予防の原則とスタンダードプリコーション、手洗い、手指消毒の技術を理解する。						
回数	テーマ	学習内容				学習形態	備考
1	看護技術とは	1.看護技術とは 1)看護技術とは何か 2)看護技術の特徴 3)看護技術の範囲と種類 4)看護技術を適切に実践するための要素				講義	
2	安全と事故防止 医療安全の確保	1.看護技術の基盤 1)医療安全の確保 2)患者及び家族への説明と助言 3)的確な看護判断と看護技術の提供				講義	
3	病床環境の 調整① 環境調整技術	1.環境調整技術の基礎知識 1)療養生活の環境 ・病室の環境のアセスメント（室内の環境条件） ・病床を整える（寝具に求められる条件）				講義	
4 5 6	病床環境の 調整② 環境調整技術	2.援助の実際 1)ベッドメイキング 2)リネン交換 3)環境整備				講義 演習	
7 8	感染予防の基本 感染予防の実際 感染防止の技術	1.感染と予防の基礎知識 2.標準予防策（スタンダードプリコーション） 1)手指衛生の実際 2)個人防護用具着脱の実際 3.感染経路別予防策の基礎知識 1)接触予防策 2)飛沫予防策 3)空気予防策 4.感染性廃棄物の取り扱い 1)感染性廃棄物の基礎知識 2)対策の実際 3)バイオハザードマーク				講義 演習	
テキスト		系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護技術Ⅰ 医学書院 系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護技術Ⅱ 医学書院					
参考書		看護技術ベーシック第2版 サイオ出版					
自己学習への 指針		テキストの該当部分を読み、事前学習しておく。 看護技術は事前に手順を確認し手順書を作成する。復習として技術練習に取り組むこと。					
評価方法		単位認定試験					

分野	専門分野	科目	基礎看護学方法Ⅱ (コミュニケーション)	単位	1	時間数	15
学年	1 年	時期	前期	講師名	宮本 美樹		
科目概要	看護職とし、対人関係において重要となるコミュニケーションの基礎を理解し、看護の対象者との人間関係を形成するための技術を学ぶ。						
科目目標	1. コミュニケーションの必要性が理解できる。 2. コミュニケーション能力向上のための一歩となる。 3. コミュニケーション障害がある対象者への対応が理解できる。						
回数	テーマ	学習内容			学習形態	備考	
1	コミュニケーションの意義と目的・構成要素	1. コミュニケーションの意義と目的 1) コミュニケーションとは 2) 看護・医療におけるコミュニケーション 2. コミュニケーションの構成要素と成立過程 3. 関係構築のためのコミュニケーションの基本			講義		
2 3	効果的なコミュニケーションの実際	2. 効果的なコミュニケーションとは 1) 傾聴の技術 2) 情報収集の技術 3) 説明の技術			講義 演習		
4 5 6 7	コミュニケーション能力を高めよう	3. 効果的なコミュニケーションの実際 1) アサーティブネス 2) アサーショントレーニング			講義 演習		
		4. コミュニケーション能力を高めよう 1) ロールプレイの実際 2) プロセスレコード			講義 演習		
8	コミュニケーション障害への対応	5. コミュニケーション障害への対応 1) 失語症 2) 構音障害 3) 神経伝達 4) 認知症 5) 意識障害			講義		
テキスト		系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護技術Ⅰ 医学書院					
参考書		医学書院 基礎看護技術 /阿曾洋子/井上智子/氏家幸子					
自己学習への指針		テキストの該当する部分を読み、予習をして授業に臨むこと。					
評価方法		単位認定試験、出席状況、授業態度					

分野	専門分野	科目	基礎看護学方法Ⅲ (フィジカルアセスメント)	単位	1	時間 数	30
学年	1 年	時期	前期	講師名	中川奈緒子		
科目 概要	身体は変化に対してなんらかのサインを出しています。患者の症状や訴えから情報を収集し、必要に応じて体に触れ、音を聴き、患者の状態を判断することがフィジカルアセスメントです。そして、そこから適切な看護援助へと繋げていきます。「テキスト」に書いてあるから行うのではなく、目的があって行うものであり、正しい測定の方法とその目的、そこからわかること、すべてが大事な要素であり、看護の源になります。演習を取り入れながらしっかり学んでいきましょう。						
科目 目標	1. 看護におけるフィジカルアセスメントの意義と目的を理解できる。 2. バイタルサイン測定を、原理原則に基づいて正確かつ、安全・安楽に実施できる。 3. 身体機能別のフィジカルイグザミネーションの目的・根拠、原理原則に基づいた方法を理解できる。 4. バイタルサイン、フィジカルイグザミネーションから対象の状態を判断できる。						
回数	テーマ	学習内容				学習 形態	備考
1	ヘルスアセスメント フィジカルアセスメ ント バイタルサイン	・ヘルスアセスメント、フィジカルアセスメント、 バイタルサインの意味と位置づけ ・問診、視診、触診、聴診、打診 ・主観的情報・客観的情報				講義	
2	身体計測の基礎知識	・身体計測の目的、方法、判断 (身長、体重、腹囲、皮下脂肪厚) ・BMI、カウプ指数、ローレル指数				講義	
3	バイタルサイン測定 (体温、脈拍)	・バイタルサインの基本知識・技術 【体温】体温とは、体温測定の目的、部位と方法 基準値と異常(微熱・高熱)、産熱・放熱、 体温の変動に影響するもの 弛張熱・稽留熱・間欠熱 【脈拍】脈拍とは 脈拍測定の目的、部位と方法 基準値と異常(頻脈・徐脈、不整脈) 変動に影響するもの				講義 演習	手順書作成
4	バイタルサイン測定 (呼吸)	・バイタルサインの基本知識・技術 【呼吸】呼吸とは、呼吸測定の目的、観察部位と方法 基準値と異常(頻呼吸・過呼吸・チェーンスト ークス・ビオー・クスマウル・努力呼吸) チアノーゼ、ばち状指、変動に影響するもの SpO2とは、測定方法と基準値				講義 演習	事前学習 あり (呼吸) 手順書作成
5	バイタルサイン測定 (血圧)	・バイタルサインの基本知識・技術 【血圧】血圧とは、血圧測定の目的、部位と方法 血圧計、聴診器の名称、使い方 血圧の基準値、変動に影響するもの				講義 演習	事前学習 あり (循環) 手順書作成
6 7	バイタルサイン 技術演習	・バイタルサイン測定 (実践に向け、一連の流れを通して練習) ・手順書をもとに原理原則で正確に実施 ・検温表の見方・書き方				演習	事前学習 あり (消化器)
8 9	バイタルサイン 実技試験	・チェックリストによる試験 ・試験結果と振り返り ・不足部分の技術練習				実技 試験	

10	呼吸器フィジカルアセスメント	【呼吸のフィジカルイグザミネーション】目的、方法 ・視診、触診、打診による観察（胸郭の動き） ・聴診（呼吸音の正常、異常）、 副雑音（類鼾音、笛音、捻髪音、水泡音）	講義 演習	手順書作成 （呼吸）
11	循環器フィジカルアセスメント	【循環のフィジカルイグザミネーション】目的、方法 ・視診、触診の観察（頸静脈怒張、心尖拍動） ・聴診（心音の正常、異常） ・末梢循環、浮腫のアセスメント	講義 演習	手順書作成 （循環）
12	消化器フィジカルアセスメント	【腹部のフィジカルイグザミネーション】目的、方法 ・視診、触診、打診による観察と部位、順番 ・腸蠕動音の聴診と判断 ・急性虫垂炎の圧痛点（マックバーニー・ランツ）	講義 演習	手順書作成 （腹部）
13	運動器・中枢神経・感覚器のフィジカルアセスメント	【その他のフィジカルイグザミネーション】目的、方法 ・意識レベル（GCS・JCS）、運動麻痺、 小脳機能、 ・MMTの測定とアセスメント ・感覚器のフィジカルイグザミネーション	講義 演習	
14 15	対象に合わせたフィジカルアセスメント	・各事例に合わせ、フィジカルイグザミネーションの実施とアセスメント	GW 演習 発表	
テキスト	系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護学〔2〕基礎看護技術Ⅰ 医学書院 フィジカルアセスメントガイドブック 医学書院			
参考書	系統看護学講座 人体の構造と機能〔1〕解剖生理学 医学書院 看護技術ベーシックス サイオ出版 看護がみえる vol.3 フィジカルアセスメント メディックメディア			
自己学習への指針	解剖生理学の知識がベースになるため、事前学習で予習を行います。また実技を習得するためには自主練習が必要不可欠です。			
評価方法	単位認定試験、実技試験、課題			

分野	専門分野	科目	基礎看護学方法Ⅳ (活動と休息、清潔)	単位	1	時間数	30
学年	1 年	時期	前期	講師名	若槻 陽子		
科目概要	日常生活援助に必要な基本的知識と、原理・原則に基づいた技術を学習する。安全・安楽な活動・休息に対する基本的技術を学習する。 清潔援助の効果と全身への影響、対象に合わせた方法選択の視点を理解し、清潔援助の基礎的知識と実際を学ぶ。清潔援助は肌を露出するため、環境を整えプライバシー保護の重要性を学ぶ。						
科目目標	1) 安全・安楽・自立の観点から活動・休息を調整する基本的技術を実施できる。 2) 清潔援助の効果と全身への影響を理解し、清潔援助が実施できる。 3) 清潔援助時の環境を整え、プライバシーの保護に留意した援助ができる。 4) 患者体験、清潔援助を実施し、振り返ることにより援助の工夫を考える事ができる。						
回数	テーマ	学習内容				学習形態	備考
1	基本的活動の援助①	1. 良い姿勢とは 2. 良肢位について 3. 関節可動域 4. 廃用症候群 5. 日常生活動作（ADL）について 6. ボディメカニクス				講義	
2	基本的活動の援助②	1. 体位と移動の基礎知識 ・患者を動かすこと、保持することの意義 2. 体位変換・体位の保持・移動の援助 3. 安全・安楽かつ効果的な看護技術を提供するためのボディメカニクスの基本				講義	
3	基本的活動の援助③	1. 移動（歩行・移乗・移送）について ・歩行の援助 ・車椅子の移乗と移送（方法と留意点） ・ストレッチャーの移乗と方法（留意点）				講義 動画	
4	基本的活動の援助④	1. 移乗介助 ・車椅子の移乗・移送				演習	
5	休息・睡眠の援助	1. 睡眠のメカニズムについて 2. 休息・睡眠の意義を理解し、アセスメントする方法および看護援助 3. 睡眠障害、睡眠を促す援助方法				講義	
6	清潔の意義 清潔援助の基礎知識①	1. 清潔とは 衣服とは 2. 皮膚の構造と機能 3. 清潔援助の全身への効果、心理・社会的効果 4. 患者の状態に応じた援助の決定と留意点				講義	
7	清潔援助の基礎知識②	1. 清潔援助の実際 各援助の概要・目的・根拠・留意点を学習する。 1) 入浴・シャワー浴 2) 全身清拭 3) 寝衣交換				講義 動画	

8	清潔援助の 基礎援助③	1. 清潔援助の実際 各援助の概要・目的・根拠・留意点を学習する。 1) 洗髪 2) 手浴・足浴 3) 陰部洗浄	講義 動画	
9	清潔援助の 基礎知識④	1. 整容の援助 洗面・整髪・髭剃りなど、頭髪や衣類などを清潔にし、 場に即した身だしなみを整えることの援助を学習する。 1) 援助の概要・目的・根拠 2) 援助の実際	講義 動画	
10 11 12	部分浴・洗髪演習	1. 洗髪の援助 ケリーパットを用いての洗髪技術演習 2. 部分浴（足浴） 1) 技術の概要・目的・根拠を考えた実技演習 2) 患者役を体験しての学び	演習	
13 14 15	全身清拭演習	1. 各援助の根拠・留意点を確認しながら演習する 1) 技術の概要・目的・根拠を考えた実技演習 2) 患者役を体験しての学び	演習	
テキスト	系統看護学講座 基礎看護技術Ⅱ 医学書院 看護技術ベーシックス サイオ出版			
参考書	動画視聴：系統看護学講座 基礎看護技術Ⅱ 医学書院 ナースングチャンネル、看護ルー			
自己学習への 指針	テキストを読み予習・復習をしてください。（医学書院：専門Ⅰ基礎看護技術Ⅱ） 動画を視聴し、技術のイメージをつけましょう。 演習までに、各技術の手順書を作成してください。復習の為に自主練習を行う。			
評価方法	単位認定試験、手順書課題			

分野	専門分野	科目	基礎看護学方法Ⅴ (食と排泄)	単位	1	時間数	30
学年	1 年	時期	前期	講師名	田口 昭子		
科目概要	人々がその人らしく健康的な日常生活を送るために、当科目では食と排泄の観点から看護技術を学ぶ。食生活と排泄環境を整え、生理的ニードを満たすための基礎的看護知識を修得し、食・排泄の援助方法を選択し、臨地実習の場で実施できるように講義・演習を行う。						
科目目標	Ⅰ. 食 1. 食事援助の方法を理解することができる。 2. 栄養状態および摂食能力のアセスメントができる。 3. 摂食、嚥下訓練を理解することができる。 4. 経鼻経管栄養の方法を理解することができる。 Ⅱ. 排泄 1. 自然排泄の援助を理解することができる。 2. 一時的導尿、持続的導尿の方法を理解することができる。 3. 便秘のアセスメントと便秘改善のケアを理解し、浣腸と排便の方法を理解することができる。 4. おむつ交換の方法を理解し実施することができる。						
回数	テーマ	学習内容			学習形態	備考	
1	Ⅰ. 食 1. 栄養と食事の基礎知識	1) 栄養・食事の意義 2) 消化吸収のメカニズム			講義		
2	2. 栄養と食事に関するアセスメント	1) 食事・栄養状態に影響する要因 2) 食事・栄養状態のアセスメント 3) 治療食・療養食とは			講義		
3	3. 食事援助の基礎知識	1) 食事困難な対象者への援助 2) 口腔ケアが困難な対象者への援助			講義		
4	4. 摂食・嚥下機能訓練	1) 摂食・嚥下機能訓練とは			講義		
5	5. 食事援助の実際	1) 食事困難な対象者への援助 2) 口腔ケアが困難な対象者への援助			演習 (実習室)		
6							
7	6. 非経口的栄養の援助	1) 経鼻経管栄養法の基礎知識 2) 中心静脈栄養法の基礎知識			講義		
8	Ⅱ. 排泄 1. 排泄の基礎知識	1) 排泄の意義 2) 排泄のメカニズム 3) 排泄に影響する要因のアセスメント 4) 温電法			講義		
9	2. 排泄に関するアセスメント 援助方法	1) 自然な排泄を促す援助 2) 床上での排泄の援助 3) おむつによる排泄援助 4) ストーマケア			講義		

10	3. 排泄の援助	1) 差し込み便器・尿器を使用して床上での 排泄の援助	演習 (実習 室)	
11		2) おむつによる排泄の援助 3) ポータブルトイレの排泄の援助		
12	4. 排便を促す援助	1) グリセリン浣腸・排便の基礎知識と 援助の実際	演習 (実習 室)	
13				
14	5. 排尿を促す援助	1) 一時的導尿・持続的導尿の基礎知識と 援助の実際	演習 (実習 室)	
15				
テキスト		系統看護学講座 基礎看護技術Ⅱ 医学書院 新訂版 看護技術ベーシックス 第2版 サイオ出版		
参考書		看護がみえる① 基礎看護技術 メディックメディア 看護がみえる② 臨床看護技術 メディックメディア 基礎看護技術 第3版 メチカルフレンド社		
自己学習への 指針		解剖生理の予習・復習をしておいてください。 放課後等の時間を使い、技術練習をしましょう。		
評価方法		単位認定試験・課題提出・授業態度・出席状況		

分野	専門分野	科目	基礎看護学方法Ⅵ (看護過程)	単位	1	時間数	30
学年	1 年	時期	後期	講師名	丸山友子		
科目概要	基礎的な看護技術を適用するための判断プロセスについて、看護過程の 5 段階のステップに基づいた技術を学習する。また対象の生活を支援するための教育的かわり、指導技術の基礎を学習する。						
科目目標	1. 看護過程を展開する際の基本的な考え方が理解できる 2. ハンダーソンが考える看護の概念が理解できる 3. 看護記録の目的と機能について理解できる 4. 看護過程展開の技術が理解できる。 5. 学習支援の基本的な考え方について理解できる						
回数	テーマ	学習内容			学習形態	備考	
1	看護過程とは	1. 看護過程とは 1) 看護過程の5つの構成要素 2) 連続的、循環的プロセス 2. 看護過程を展開する際に基盤となる考え方 1) 看護過程と問題解決過程 2) クリティカルシンキング 3) リフレクション 4) 問題志向型 5) 臨床推論と臨床判断・臨床判断モデル			講義		
2	看護記録とは	1. 看護記録とは 1) 看護記録の目的 2) 記載・管理上の留意点 3) 看護記録の構成			講義		
3	ハンダーソンが考える看護	1. 看護理論 ハンダーソンが考える人間、環境、健康、看護の概念			講義		
5 6 7	看護過程の各段階	1. アセスメント（情報の収集と分析） 事例展開			講義 演習		
8 9		2. 全体像の把握（関連図） 事例展開			講義 演習		
10 11		3. 看護問題の明確化（看護診断） 1) 看護診断とは 2) 看護問題リストによる看護診断 事例展開			講義 演習		
12 13		4. 看護計画、実施、評価 1) 看護記録について 事例展開			講義 演習		
14 15	看護における学習支援	1. 看護における学習支援 1) 健康に生きることを支える学習支援 2) 健康状態の変化に伴う学習支援			講義		
テキスト		系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護技術Ⅰ 医学書院 秋葉公子 共著 看護過程を使ったハンダーソン看護論の実践 ヌーベルヒロカワ					
自己学習への指針		テキストの該当する部分を読み、事前学習して講義に臨む					
評価方法		単位認定試験・事例展開用紙にて評価する					

分野	専門分野	科目	基礎看護学方法Ⅷ (BLS、呼吸・創傷管理)	単位	1	時間数	30
学年	1 年	時期	後期	講師名	川村 美恵子		
科目概要	BLS とはなにか。basic life support「一次救命処置」のことであり、心肺停止状態の傷病者に対し、特別な器具を使用せず行う救急処置のことである。急変はさまざまところで、予期せぬ時に発生する。そのため看護学生としてこれらの救命処置に関する知識を学び、必要な技術を身に付けていく必要がある。また、安楽な呼吸や創傷の治癒過程について理解し、援助方法について学ぶ。						
科目目標	1. BLS についての知識を理解し、実施できる。 2. 呼吸を整える援助方法（酸素吸入、ネブライザー、吸引、ドレナージ）を理解し、実施できる。 3. 創傷治癒過程、褥瘡予防について理解し、創傷処置（無菌操作、包帯法）を実施できる。						
回数	テーマ	学習内容			学習形態	備考	
1	呼吸を整える援助	呼吸の基礎知識、アセスメント			講義 演習		
2		呼吸を整える援助方法と目的（吸引、酸素療法 ネブライザー、体位ドレナージ、ハフティング）					
3	呼吸を整える援助 の実践	酸素吸入、ネブライザー、体位ドレナージ			演習		
4		口腔・鼻腔吸引					
5	洗浄・消毒・滅菌 無菌操作	感染経路別予防策、 洗浄・消毒・滅菌の基礎知識、無菌操作の基礎知識			講義		
6	無菌操作の実践	滅菌手袋、ガウンテクニック、			講義 演習		
7		滅菌バッグ、滅菌包装、滅菌物の取り出し方 鉗子・鑷子の取り扱い					
8	創傷管理の 基礎知識	創傷とはなにか。創傷の治癒過程 創傷処置の援助、止血法、包帯法			講義		
9	褥瘡の予防	褥瘡とはなにか。褥瘡の好発部位 褥瘡のリスクアセスメント、予防援助			講義		
10	褥瘡予防・ 創傷処置の実践	除圧、体位変換			演習		
11		洗浄と創保護、包帯法、					
12	救命救急とは なにか	心肺停止とはなにか。救命救急の目的と意義 救命救急における看護師の役割、トリアージ 止血法の実施			講義		
13	BLS とはなにか	救急蘇生法（一次救命処置、二次救命処置） CPR（心肺蘇生法）、BLS の流れ、窒息時の処置 乳児・小児に対する BLS の違い			講義		
14	BLS の実践	一次救命処置の演習発表 1. 安全の確保 4. 胸骨圧迫 2. 救援の確保 5. 人工呼吸 3. 気道確保と呼吸確認 6. AED			演習		
15							
テキスト		系統看護学講座 基礎看護学技術Ⅰ・Ⅱ 医学書院					
参考書		看護がみえる 1 基礎看護技術、2 臨床看護技術 MEDIC MEDIA、 看護技術ベーシック第2版 サイオ出版					
自己学習への 指針		演習が多くなります。知識を予習して臨み、復習することで理解に繋がります。手順書の作成、自主練習 看護技術を正しく実施する事に加え、目的や根拠の理解が重要になります。					
評価方法		小テスト・レポート <20%> 単位認定試験 <80%>					

分野	専門分野	科目	基礎看護学方法Ⅸ (臨床看護総論)	単位	2	時間数	60
学年	2 年	時期	前期	講師名	石井 朋子		
科目 概要	看護が提供される場で、対象者と関わりながら看護実践を行う臨床看護の基盤となる能力を養う。看護場面からの「気づき」を基に、対象者の現象が起こる原因や要因を既習知識から予測し、必要な観察・分析・実践・評価の一連から臨床的思考の理解に繋ぐ。 基礎看護学方法Ⅰ～Ⅷの知識や技術を統合し、健康上のニーズを持つ対象者に適した援助方法をシミュレーションを通して学修する。 臨地実習（基礎看護学実習Ⅱ、領域別実習）、専門分野Ⅱへ発展させる科目とする。						
科目 目標	1) 看護における臨床判断の必要性和展開方法が理解できる 2) 看護における「気づき」の必要性和理解できる 3) 看護実践の基盤である安全・安楽・自立・快適さを考えた援助を修得できる。 4) 看護の成果を向上するために対象の反応を適切にとらえることの必要性和理解できる 5) ルーブリック評価から自己課題を認識し、能動的に学習することの必要性和分かる						
回数	テーマ	学習内容				学習形態	備考
1	授業の進め方 臨床判断とは	臨床判断の基礎知識 1. 臨床判断とは何か 2. 臨床判断の思考過程 3. 臨床判断の展開方法				講義	
2	症状別看護① 発熱のある患者の援助	1.発熱のある患者の看護援助 ①発熱の定義 ②発熱・解熱のメカニズムと随伴症状 ③発熱の原因・誘因 ④診察、検査 ⑤治療 ⑥看護 2.事例紹介				小テスト 講義 GW	事前学習
3 4	症状別看護① 発熱のある患者の援助	1. 発熱のある患者のニーズと看護援助を考える ①事例患者の循環のアセスメント、生活への影響 ②患者に必要な看護援助を考え、看護計画を立案する				個人 ワーク G.W	ワーク シート 看護計画
5 6 7	症状別看護① 発熱のある患者の援助	1.立案した看護計画を模擬患者に実践する。 グループ毎に振り返りを行い、看護計画を修正し、次の演習に向けて準備をする 2.修正した看護計画を模擬患者に実践する。 グループ毎に振り返りを行い、「発熱のある患者の援助」についてまとめる。				演習①②	
8	症状別看護① 発熱のある患者の援助	1.グループ発表 他のグループの発表から学びを深める 発熱のある患者の援助のまとめ				発表	ルーブリック評価

9 10 11	症状別看護② 呼吸困難のある 患者の援助	1.呼吸困難感のある患者の看護援助を考える ①呼吸困難の定義 ②呼吸困難の分類 ③呼吸困難の原因・誘因とメカニズム ④随伴症状、診察・検査、治療 ⑤看護 2.事例紹介 3.呼吸困難のある患者のニーズと看護援助を考える ①事例患者の呼吸困難のアセスメント、生活への影響 ②患者に必要な看護援助を考え、看護計画を立案する	小テスト 講義 GW	事前学習
12 13 14	症状別看護② 呼吸困難のある 患者の援助	1.立案した看護計画を模擬患者に実践する。 グループ毎に振り返りを行い、看護計画を修正し、 次回の演習に向けて準備をする 2.修正した看護計画を模擬患者に実践する。 グループ毎に振り返りを行い、「呼吸困難のある患者の 援助」についてまとめる。	演習①②	
15	症状別看護② 呼吸困難のある 患者の援助	1.グループ発表 他のグループの発表から学びを深める 呼吸困難のある患者の援助のまとめ	発表	ループリ ック評価
16 17 18	症状別看護③ 血圧異常のある 患者の援助	1.血圧異常のある患者の援助 ①高血圧とは、低血圧とは ②高血圧・低血圧の原因、誘因とメカニズム ③随伴症状と悪化する要因 ④診察・検査 ⑤治療 ⑥看護 2.事例紹介 3.血圧異常のある患者のニーズと看護援助を考える ①事例患者の循環のアセスメント、生活への影響 ②患者に必要な看護援助を考え、看護計画を立案する	小テスト 講義 GW	事前学習
19 20 21	症状別看護③ 血圧異常のある 患者の援助	1.立案した看護計画を模擬患者に実践する。 グループ毎に振り返りを行い、看護計画を修正し、 次回の演習に向けて準備をする 2.修正した看護計画を模擬患者に実践する。 グループ毎に振り返りを行い、「血圧異常のある患者の 援助」についてまとめる。	演習①②	
22	症状別看護③ 血圧異常のある 患者の援助	1.グループ発表 他のグループの発表から学びを深める 血圧異常のある患者の援助のまとめ	発表	ループリ ック評価

23 24 25	症状別看護④ 嘔気・嘔吐のある 患者の看護援助	1.嘔気・嘔吐のある患者の援助 ①嘔気・嘔吐の定義 ②嘔気・嘔吐の原因、誘因とメカニズム ③随伴症状と悪化 ④診察・検査 ⑤治療 ⑥看護 2.事例紹介 3.嘔気・嘔吐のある患者のニーズと看護援助を考える ①事例患者の疼痛のアセスメント、生活への影響 ②患者に必要な看護援助を考え、看護計画を立案する	小テスト 講義 GW	事前学習
26 27 28	症状別看護④ 嘔気・嘔吐のある 患者の看護援助	1.立案した看護計画を模擬患者に実践する。 グループ毎に振り返りを行い、看護計画を修正し、 次回の演習に向けて準備をする 2.修正した看護計画を模擬患者に実践する。 グループ毎に振り返りを行い、「嘔気・嘔吐のある患者の 援助」についてまとめる。	演習①②	
29	症状別看護④ 嘔気・嘔吐のある 患者の看護援助	1.グループ発表 他のグループの発表から学びを深める 嘔気・嘔吐のある患者の看護のまとめ	発表	ループリ ック評価
30	臨床看護総論の まとめ	主要な症状を示す患者への、アセスメント・診断・看護援 助という看護実践の思考過程を振り返る。	講義	
テキスト		系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護学技術Ⅰ 基礎看護学② 医学書院 系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護学技術Ⅱ 基礎看護学③ 医学書院 看護技術ベーシック サイオ出版 系統看護学講座 専門分野Ⅰ 臨床看護総論 基礎看護学④ 医学書院		
参考書		第4版 看護過程を使ったヘンダーソン看護論の実践 系統看護学講座 専門基礎分野 解剖生理学 人体の構造と機能①		
自己学習への 指針		テキストや参考図書で自己学習のうえ、授業に臨んでください。基礎看護学方法Ⅰ～Ⅶの復 習、動画を視聴し看護技術の練習を含め、事前準備を行ってください。 基礎看護学実習Ⅱに発展できる学習となることを期待します。		
評価方法		筆記試験（小テスト4回平均）30%、ループリック評価 70%の総合評価		

分野	専門分野	科目	地域・在宅看護概論Ⅰ	単位	1	時間数	15
学年	1年	時期	前期	講師名	田口 昭子		
科目概要	地域・在宅看護は全ての年齢層、様々な健康レベルにある人々が対象となる。地域で生活する人々は何らかの理由で一時的入院加療が必要となっても、治療を終えて住み慣れた地域に戻る。この科目では、地域・在宅看護の対象となる人、その家族が生活する「地域」について体験から理解し、地域特性が生活に及ぼす影響について考えることを目的とする。その後に控える地域・在宅看護方法でその人らしい暮らしを支える看護の土台（視点）となるようにする。						
科目目標	1. 地域の特性を生活者の視点から理解することが出来る。 2. 地域の特性が、人々の健康にどのような影響を与えるかを理解することができる。						
回数	テーマ	学習内容				学習形態	備考
1.2	生活に必要な要件とは何か	1. 地域と生活 1)「生活」のとりえ方 2)「地域」のとりえ方 3) 地域、生活と健康の関係性 ・何が満たされると豊かな生活が送れるのか、何が侵されると生活に支障をきたすのかを考える 2. 地域を「みる」(準備) 1) フィールドワークの目的・方法説明 2) 担当する地域について調べる				講義・GW	事前学習 課題提出
3.4	実際の地域を調べてみよう	1. 地域を「みる」(実際) 成田市内を各グループで分担し実際の地域を生活者の視点からみる ・医療施設(医療環境) ・公共施設(市役所、保健所、公民館など) ・人々が活用できる資源(店、交通手段など)				フィールドワーク	
5.6	調べたことをまとめよう	1. 地域を「みる」(まとめ) 1) 各グループで調べた地域について気づきをまとめる 2) 発表準備				GW	
7.8	どのような地域が生活の場として望ましいか	1. どのような地域が生活の場として望ましいか 1) 生活の場の特徴、違い、気づき 2) 地域で生活するために必要とされる事 3) 地域で生活するための問題点				発表	
テキスト		ナーシンググラフィカ『地域療養を支えるケア』地域・在宅看護論①メディカ出版					
参考書		系統看護学講座 専門分野 地域・在宅看護論〔1〕地域在宅看護の基盤 医学書院 系統看護学講座 専門分野 地域・在宅看護論〔2〕地域・在宅の実践 医学書院 厚生労働省統計協会 『国民衛生の動向』 『国民の福祉と介護の動向』 医学書院 医療福祉総合ガイドブック					
自己学習への指針		新聞・ニュースに取り上げられている生活にかかわる問題点や、小中高校で学んだことを学習に反映できるように振り返りを行ってから授業に臨むこと。 自分の住んでいる環境や、地域コミュニティについて調べてから授業に臨むこと。					
評価方法		・講義・GW への参加姿勢、課題の提出状況、単位認定試験などの総合的判断 ・単位修得基準は学院要綱に準ずる。					

分野	専門分野	科目	地域・在宅看護概論Ⅱ	単位	1	時間数	15
学年	1年	時期	前期	講師名	田口 昭子		
科目概要	本科目では、人々の尊厳と権利を守りながら健康と生活を支援するための地域・在宅看護の機能（役割）と理念、倫理について在宅看護の社会的背景と共に理解する。 概論Ⅰで学習した地域と健康な生活の繋がりを想起し、地域・在宅看護の対象のとらえ方、地域包括ケアシステムと多様な機関から提供されるサービスについて理解する。						
科目目標	1. 地域・在宅看護の機能、理念、倫理について理解する 2. 多様な場で暮らしを支える在宅看護の機能（役割）について理解する 3. 在宅療養者とその家族を看護の対象者としてとらえる必要性を理解する 4. その人らしい暮らしに繋がる地域包括ケアシステムと社会資源について理解する						
回数	テーマ	学習内容				学習形態	備考
1	地域・在宅看護の基盤	1. 在宅看護とは何か 2. 地域療養を支える在宅看護の役割と機能 3. 地域・在宅看護展開の基本理念 4. 地域・在宅看護における倫理				講義	
2 3	在宅療養者と家族の支援	1. 地域・在宅看護の対象者 2. 在宅療養の成立要件 3. 在宅療養の場における家族のとらえ方 4. 在宅療養者の家族への看護				講義 ペア ワーク	
4 5	地域包括ケアシステムと多様な生活の場における看護	1. 地域アセスメントの意義 1) 地域アセスメントの方法 2) コミュニティー・アズ・パートナーモデル 3) 地域包括ケアシステムへの展開 2. 地域包括ケアシステムとは 3. 療養の場の移行に伴う看護の連携 4. 地域包括ケアシステムにおける多職種、多機関の連携				講義 G..W	
6 7	在宅看護におけるケースマネジメント/ケアマネジメント/ケアマネジメント	1. ケースマネジメント/ケアマネジメントの概念 2. 介護保険制度におけるケアマネジメント 1) 目的 2) 過程 3) 実践 3. 事例検討				講義 G.W	
8	地域療養を支える制度	1. 社会資源の活用 1) 在宅療養を支える機関・サービス 2) 社会資源の活用における看護職の役割				講義	
テキスト		ナーシンググラフィカ『地域療養を支えるケア』地域・在宅看護論（1）メディカ出版					
参考書		厚生労働省統計協会 『国民衛生の動向』 『国民の福祉と介護の動向』 日本訪問看護財団監修 訪問看護基本テキスト総論編 日本看護協会出版 日本訪問看護財団監修 訪問看護基本テキスト各論編 日本看護協会出版 医学書院 医療福祉総合ガイドブック					
自己学習への指針		・予習・復習をして授業に臨むこと。					
評価方法		・講義への参加姿勢、単位認定試験などの総合的判断 ・単位修得基準は学院要綱に準ずる。					

分野	専門分野	科目	地域・在宅看護方法Ⅰ	単位	1	時間数	15
学年	2 年	時期	前期	講師名	田口 昭子		
科目概要	地域で暮らす全ての年齢層、様々な健康レベルにある人々やそれを取り巻く家族に対し、生活の場で提供する看護の基礎を学修する。地域療養を支える法制度を理解した上で、訪問看護の特徴とサービスの展開の基礎を学修する。療養者やその家族が置かれている多様性を踏まえ、在宅看護におけるリスクマネジメントの考え方を理解する。						
科目目標	1, 地域療養を支える各制度の対象と活用について理解する 2, 訪問看護の概要、看護師の役割を理解する 3, QOL の維持、向上を目的とする訪問看護のサービスの展開を理解する 4, 在宅看護の特徴と対象の多様性を踏まえ、発生するリスクと対処について理解する						
回数	テーマ	学習内容				学習形態	備考
1 2	地域療養を支える制度	1, 医療保険制度 2, 後期高齢者医療制度 3, 介護保険制度 4, 生活保護制度 5, 障害者に関連する法律 6, 難病法 7, こどもの在宅療養を支える制度と社会資源 8, 在宅療養者の権利擁護 9, 高齢者施策				講義	
3	訪問看護の概要	1, 訪問看護の特徴 2, 訪問看護ステーション 1) 開設基準 2) 従事者 3) 対象者 4) サービス内容 5) サービス開始までの流れ 6) 利用料				講義	
4	訪問看護のサービスの展開	1. 訪問看護サービスの展開 1) 訪問看護に必要な臨床判断能力 2) 看護過程の実際（過程を知る） ①情報収集 ②アセスメント ③計画立案 ④実施 ⑤評価				講義	
5 6 7	訪問看護のサービスの展開	1. 訪問看護サービスの展開 1) 家庭訪問とは 2) 初回訪問のプロセス ①訪問前の準備 ②訪問の実際 ③初回訪問の情報収集 ④訪問終了後 3) 訪問看護の記録 4) ロールプレイ				講義 GW 演習	
8	在宅看護におけるリスクマネジメント	1. 在宅看護における危機管理 1) 在宅療養の場で起こりうる事故の予防と対応 2) 在宅療養におけるリスクの特徴 2. 日常生活におけるリスクマネジメント 3. 災害時における在宅療養者とその家族の健康危機管理 1) 防災・減災対策の指導 2) 医療機関との連携 3) 福祉機関との連携 4) 行政との連携				講義 GW	

テキスト	ナーシンググラフィカ 地域・在宅看護論①「地域療養を支えるケア」メディカ出版
参考書	
自己学習への 指針	講義内容に該当するテキストを事前に読んでおいてください。
評価方法	単位認定試験、講義への参加態度含む総合評価

分野	専門分野	科目	地域・在宅看護方法Ⅱ	単位	1	時間数	30
学年	2年	時期	後期	講師名	松澤 悠紀		
科目概要	地域で暮らす人や、在宅療養者、その家族の発達段階や健康レベルに応じた観察の視点を理解し、地域・在宅看護に必要な臨床判断能力を醸成する。在宅療養者および家族のニーズをとらえ、エンパワメント向上に繋がる日常生活援助・医療的ケアの技術を学修し、暮らしの場における看護の方法を考えられることを目的とする。						
科目目標	1. 在宅で療養する人とその家族との信頼関係を構築するためのコミュニケーション技術を理解する 2. 在宅で療養する人とその家族の生活を支えるために必要な生活援助技術、医療的ケアの技術について理解する 3. 在宅看護における臨床判断能力の必要性について理解する						
回数	テーマ		学習内容			学習形態	備考
1	在宅看護の基本		1. コミュニケーションの基本 1) 療養者、家族とのコミュニケーション 2) 組織内のコミュニケーション 3) 多職種チームのコミュニケーション 2. 在宅におけるアセスメント技術 1) ヘルスアセスメントの基本 3. 環境整備 1) 居住環境のアセスメント 2) 環境整備に活用できる社会資源			講義 個人ワーク	
2	在宅看護の基本		1. 生活リハビリテーションの基本 2. 感染予防 3. ターミナルケア			講義	
3 4	療養を支える看護技術 医療ケア		1. 医療ケアの原理・原則 1) 意義・目的 2) 観察とアセスメント 3) リスクマネジメント 4) 療養者と家族のセルフマネジメント支援 5) 多機関、多職種連携 6) 社会資源の活用 2. 薬物療法 1) 在宅における薬物療法の意義・目的 2) 薬物療法のアセスメント 3) 援助の実際 ①薬の管理 ②内服療法 ③インスリン自己注射 3. がん化学療法 1) 在宅療養者のがん化学療法の特徴 2) アセスメント 3) 援助の実際			講義	
5 6	療養を支える看護技術 呼吸		1. 呼吸 1) 在宅療養の場における呼吸ケアの特徴 2) アセスメント 3) 援助の実際 ①酸素療法・人工呼吸器管理の実際 ・非侵襲的陽圧換気療法(NPPV) ・在宅酸素療法(HOT) ②気管切開をしている療養者への看護 ・排痰援助 ・気管切開部の管理 ・コミュニケーションの工夫			講義・ 演習	

7	日常生活を支える 看護技術（食生活）	1. 食生活 1) 在宅療養の場における食生活の特徴 2) 食に関するアセスメント 3) 援助の実際 ①食事介助 ②経管栄養(HEN) ③在宅中心静脈栄養法(HPN)	講義	
8	日常生活を支える 看護技術（排泄）	1. 排泄 1) 在宅療養の場における排泄の基本 2) 排泄のアセスメント 3) 援助の実際 ①尿失禁の予防と援助 ②便失禁の予防と援助 ③便秘の予防と援助 ④尿道留置カテーテルの管理	講義 演習	
9	日常生活を支える 看護技術 （肢位の保持・移動）	1. 肢位の保持と移動 1) 在宅における移動と肢位の保持の重要性 2) 移動能力に関わる身体機能のアセスメント 3) 援助の実際	講義 演習	
10	日常生活を支える看護技術 （清潔）	1. 在宅療養の場における清潔の特徴 1) 清潔のアセスメント 2) 援助の実際 ①入浴・清拭・洗髪・陰部・爪・口腔 ②褥瘡管理 ③社会資源の活用	講義 演習	
11 12	療養者、家族の訴えから考 える（臨床判断）	3. 「意識が変なんです」 と訴えられたら何を考える？	GW 演習	
13	療養者、家族の訴えから考 える（臨床判断）	1. 「転んでしまいました」 と訴えられたら何を考える？	GW 演習	
14	療養者、家族の訴えから考 える（臨床判断）	2. 「おしっこが出てないです」 と訴えられたら何を考える？	GW 演習	
15	在宅療養を支える技術	まとめ		
テキスト		ナーシンググラフィカ 地域・在宅看護論②「在宅療養を支える技術」メディカ出版		
参考書		系統看護学講座 統合分野 在宅看護論 医学書院専門分野Ⅱ 老年看護学 医学書院、老年看護病態・疾患論 医学書院 成人看護学 2 呼吸器、3 循環器、5 消化器、7 脳・神経、8 腎・泌尿器 別巻 臨床外科看護総論 医学書院、別巻 栄養食事療法 医学書院 ・フィジカルアセスメントガイドブック 第2版 医学書院 ・家研也編 この熱「様子見」で大丈夫？在宅で出会う「なんとなく変」への対応法 医学書院		
自己学習への 指針		全領域のテキストを使用します。教員の指示を確認の上、講義に必要と思われるものを準備してください。在宅看護は臨床判断能力の必要性が高いため、学生のうちから能動的な取り組みが重要となります。		
評価方法		単位認定試験、講義への参加態度含む総合評価		

分野	専門分野	科目	地域・在宅看護方法Ⅲ	単位	1	時間数	15
学年	3 年	時期	前期	講師名	田口 昭子		
科目概要	地域・在宅看護の事例を通し、対象者の生活を中心とした価値観・人生観・自己決定・療養者と家族のエンパワメント・社会資源の活用に視点を置いた看護を展開できる基礎的能力を養う。						
科目目標	1. 療養者と家族の生活を中心とした情報収集の視点を理解する 2. 療養者と家族の価値観、意思、エンパワメント、社会資源の活用を含めたアセスメント方法を理解する 3. 目標、実施、評価における在宅看護の視点を理解する						
回数	テーマ	学習内容			学習形態	備考	
1. 2	在宅看護過程の展開	1. 在宅看護に必要な臨床判断能力とは 2. 看護過程の特徴 3. 看護過程の展開 ①情報収集 (情報源・療養者、家族の思い・情報収集項目) ②アセスメントの視点 (療養者とその家族のニーズを踏まえる・顕在的な課題・潜在する課題・介護力) ③計画立案の視点 (看護提供の場を考慮する・価値観・意思の尊重・エンパワメントの向上に繋げる・社会資源の活用・多機関の連携) ④実施 (対象者の反応をみる・柔軟な対応) ⑤評価の視点 (チームで評価すること・対象者の反応)			講義		
3	在宅看護過程の展開	1. 事例検討 1) 循環器疾患をもつ対象者の看護 2) ALS に罹患した対象者に対する在宅看護 3) 終末期を迎えた対象者の在宅看護			個人ワーク		
4 5	在宅看護過程の展開	1. 事例検討 1) 在宅看護の特徴を踏まえ看護過程の展開			個人ワーク		
6 7 8	事例展開発表と学習成果の共有	1. 各事例について発表 1) 検討・評価・考察 2) 発表事例に関する理解の共有			GW・講義	発表	
テキスト		系統看護学講座 専門分野 地域・在宅看護論〔1〕地域在宅看護の基盤 医学書院 系統看護学講座 専門分野 地域・在宅看護論〔2〕地域・在宅の実践 医学書院					
参考書		・山内豊明著 フィジカルアセスメントガイドブック パラ書店					
自己学習への指針		・在宅看護に関わる法的知識・福祉、家族関係など既習学習を復習し講義に臨むこと。 ・解剖生理・病態・治療・看護について復習してから講義に臨むこと。					
評価方法		・出席状況、授業・GW への参加姿勢、課題の提出状況、単位認定試験などの総合的判断。					

分野	専門分野	科目	公衆衛生看護学概論Ⅰ	単位	1	時間数	30
学年	1 年	時期	後期	講師名	北崎 美祈		
科目概要	将来保健師として専門性を高め、基礎的能力の育成を目指す学問体系を学ぶ。概論Ⅰでは地域を基盤として展開する公衆衛生看護を切り開ける基礎学修内容を丁寧に学ぶ。主には公衆衛生の理念（ウィンスローの定義・憲法第 25 条・WHO・オタワ憲章等）、公衆衛生看護の基盤となる概念（理念、定義内包）対象と活動の目標、公衆衛生看護活動推進するために必要な能力、わが国の保健師の機能・役割の特徴と活動領域、保助看法にみる保健師の規定、保健師としてとるべき態度・行為を倫理的に考えられる等。						
科目目標	1 「公衆衛生看護とは」「公衆衛生とは」について理解する。 2 地域保健法では、地域保健行政の推進体制と第 4 条「地域保健対策の推進に関する基本的な指針」を理解できる。 3 都道府県及び市町村において保健師の活動は、公衆衛生看護の専門職として「基本指針」「保健師活動指針」に基づいた地域保健活動を理解できる。						
回数	テーマ	学習内容				学習形態	備考
1	公衆衛生看護学概論のシラバス説明	1 シラバス解説による概論導入 2 地域社会を構成する人々を対象として看護活動領域には、地域生活集団に焦点をあてた公衆衛生看護と在宅療養者と家族に焦点を当てた在宅看護があることを理解する。 3 公衆衛生看護学概論の視聴覚学習				講義 DVD	確認テスト
2	公衆衛生看護とは 地域保健法	1 公衆衛生看護とは 公衆衛生の理念 概念 定義など 2 地域保健法の解説 地域保健対策を総合的に推進をはかる法体系。国・地方公共団体の責務の明確化 法令原文を用いて学ぶ				講義	
3	地域保健法第 4 条（基本指針）	1 衛生法と厚生労働行政の仕組み 2 地域保健対策の推進に関する基本的な指針（法令原文解説） 国・保健所・市町村保健センター業務等				講義	
4	公衆衛生の定義 保健師助産師看護師法にみる保健師の規定	1 ウィンスローによる公衆衛生の定義 全文解説 公衆衛生の目的・目標根対象、活動の原則、活動の方法 2 保健師助産師看護師法解説 法の構造と付属法令 本法を学ぶ定義 免許取得の要件 受験資格 名称の独占 業務独占 業務上の義務 法律違反等				講義	
5	行政機関における保健師活動・業務	1 「地域における保健師の保健活動に関する指針」通達から行政機関における保健師活動・業務を理解する 2 公衆衛生と日本国憲法 「健康で文化的な生活」 3 対象者の生活実態を基盤にした健康問題の構造的な理解				講義	
6	わが国の保健師の機能・役割の特徴	1 活動体制からみた特徴 2 取り組むべき活動の優先順位 3 技術的観点				講義	
7	公衆衛生の歴史	1 公衆衛生活動の目的・目標の変遷 公衆衛生の発展期 1980 年代以降 第二次大戦以降				講義	
8	公衆衛生看護の活動を支える概念となるもの	1 PHC: 健康は基本的人権 2 公衆衛生の活動を支えるヘルスプロモーションの概念 3 ノーマライゼーションの理念とわが国の理念の具現化				講義	

9	公衆衛生看護の倫理	1 倫理の知識を、公衆衛生看護に応用することにより、保健師としてとるべき態度や行為について多角的、体系的に考えられるようになる。 2 看護者の倫理綱領（日本看護協会 2021 年）解説 3 「アドボカシー」倫理的意思決定の基盤となる概念	講義 演習	
10	障害者とともに生きる	1 21 世紀型（2025 年）の社会保障 基本的な考え方: 自助・互助・共助・公助 社会福祉制度とは 2 障がい者の権利条約への道のり 障害と生活機能障害を捉える理論と演習 共生社会の構築と「医療介護総合確保促進法」の理解	講義	
11	公衆衛生看護の対象①	公衆衛生看護対象の特徴 対象集団のとりえ方 1) 生活の営みを基軸とした地域生活集団（community）として、捉えることが基本 2) 活動対象としての個人 生活者としてのとりえ方 発達段階と課題 3) 世帯単位に捉えた生活集団	講義	
12	②	家族看護学参照 家族の定義 発達周期と健康課題 アセスメント理論 地域の人々の生活実態をデータでわかりやすく視角化等 ：基本は対象は世帯単位にとらえ、受け持ち全地区に広大	講義	
13	受け持ち地区の構成 活動方法の特質	1) 受け持ち地区の構成: 地域における生活手段と生産手段の混在、受け持ち地区の生活集団の構成を例題を活用 2) 保健師活動は、保健指導として総称された技術を適用し、実施するものであるが、ここでは地区活動全体像を捉える意味で活動方法の特徴	講義	最新 公衆衛生看護学引用
14	公衆衛生看護活動の場と機能①	1) 行政機関に所属する保健師の活動根拠 基本的人権としての健康と国・地方公共団体、行政組織に所属すること 2) 全住民対象とした活動 母集団の一人ひとりをサービスの対象 地域に共通する問題を捉えた予防活動 潜在ニーズへの対応 3) 住民誰もが地域で生活し続けられる基盤づくり	講義 演習	
14	②	公衆衛生看護実践の場となる保健所業務と保健師の業務 「地域保健対策の推進に関する基本的な指針」を理解 公衆衛生看護実践の場となる市町村業務と保健師の業務 「地域における保健師の保健活動に関する指針」を理解	講義	
15	医療法と医療介護総合確保推進法	医療法における医療施設・医療計画と医療介護総合確保推進法にある地域医療構想を理解する。地域包括ケアシステム構築への役割を理解する。理解を深めるため、演習引用する。	講義	
テキスト		標準保健師講座 公衆衛生看護学概論 医学書院		
参考書		最新 公衆衛生看護学 日本看護協会出版会 家族看護学 南江堂 国民衛生の動向 厚生労働統計協会		
自己学習への指針		受講者参加型 講義・発表・討論・レポートを通して学識を高める		
評価方法		単位認定試験		

分野	専門分野	科目	公衆衛生看護支援Ⅰ (家庭訪問・健康相談)	単位	1	時間数	30
学年	2年	時期	後期	講師名	北崎 美祈		
科目概要	公衆衛生看護活動に特徴的な援助方法として個人・家族のセルフケア能力を高める援助方法および特定の集団に特徴的な問題を解決するための援助方法について理解する。 公衆衛生看護の実践で用いる家庭訪問、健康相談、健康診査等の基本的な技術を理解する。 対象者個別の問題を地域社会（集団）の課題としてとらえなおし、予防的に介入し支援する能力を学ぶ。						
科目目標	1 家族を最小単位として生活の場で健康問題を解決するために行う支援について理解する。 2 障害や疾病があったとしても家族や仲間の中で役割を持つことを認め合う関係性の中で、対象者に信頼される保健師であることが問われていることを理解する。 3 個人および家族の健康と生活について分析し健康課題解決のための支援計画を立案できる。						
回数	テーマ	学習内容			学習形態	備考	
1	公衆衛生看護における機能と技術	・ 公衆衛生看護における機能と技術 ・ 地域保健活動			講義		
2	公衆衛生看護における対象の理解	・ 公衆衛生看護の対象と健康問題への支援 ・ 生活者としての個人の理解と支援方法 ・ 家族を単位とした対象理解と支援方法 ・ 対象の理解のための地域の健康問題の構造			講義		
3	公衆衛生看護の基盤となる理論	・ 行動を取り巻く要因、保健行動とは ・ 保健行動に関する理論 変化の3段階理論 ヘルスピリーフモデル 変化ステージ理論 ・ 健康段階別保健行動 健康増進行動 予防的保健行動 病気回避行動 病気対処行動			講義		
4		・ 目的別保健行動（セルフケア行動、コンプライアンス行動、ウェルネス行動） ・ 理論・モデルを用いた保健行動の理解 ヘルスリテラシー、自己効力感、ストレスへの対処力			講義		
5		・ 行動変容段階（無関心期、関心期、準備期、実行期、継続期） ・ 保健行動・健康行動を生み出す力					
6	対人支援活動の展開	・ 対人支援の目的、対人支援の基本、特徴 ・ 対人支援の技術			講義		
7		・ 健康相談① 目的、対象、方法と特徴、種類、契機、基本姿勢			講義		
8		・ 相談② 事例を通して 個人ワーク、グループワーク			講義 演習		
9		・ 健康診査・検診 健康診査の目的、対象、方法 特定健診・特定保健指導 健康診査における保健指導 未受診者、要精査者のフォローアップ			演習		

10	家庭訪問による 支援の展開	・家庭訪問の目的、特徴、機能 ・家庭訪問の機能 ・家庭訪問のプロセス	講義	
11		・家庭訪問の具体的手順 ・DVD:家庭訪問 ・家庭訪問受け入れ困難事例への対応 ・プライバシーなどへの配慮	講義 DVD 視聴	
12		・家庭訪問における支援の実際 ・事例検討① 母子、障害、難病 個人ワーク	講義 演習	
13		・事例検討 母子、障害、難病 個人ワーク	演習	
14		・事例検討 グループワーク	演習	
15		・家庭訪問事例、ロールプレイ ・家庭訪問事例検討・振り返り、まとめ ・家庭訪問まとめ ・授業 まとめ	演習 講義	
テキスト	標準保健師講座2 公衆衛生看護技術 医学書院			
参考書	DVD：地域看護活動とヘルスポロモーション第5巻 （家庭訪問の展開とコミュニケーション技術） 最新保健師講座2 公衆衛生看護支援技術 メヂカルフレンド社 医療・保健スタッフのための健康行動理論、基礎および実践編 松本千明 医歯薬出版株 効果的な面接技術と事業展開から学ぶ保健指導 金川克子監修・宮崎美砂子編集 中央法規			
自己学習への 指針	復習をして授業に臨む			
評価方法	単位認定試験 演習取り組み態度の総合評価			

分野	専門分野	科目	公衆衛生看護支援Ⅱ (地域ケア体制づくり)	単位	1	時間数	30
学年	2 年	時期	前期	講師名	佐藤 香織		
科目概要	地域の健康水準を高めるため、地域の特性や住民の顕在・潜在するニーズを把握し、地域ケア体制づくりにおける保健師の役割・機能について学ぶ。						
科目目標	1 地域活動およびケアマネジメントの目的・対象・方法を理解する。 2 地域組織の育成・支援における保健師の役割と支援方法を理解する。 3 ソーシャルキャピタルの情勢と活用を理解する。 4 地域ケアシステムの構築における保健師の役割・保健活動について理解する。						
回数	テーマ	学習内容				学習形態	備考
1	地域組織活動とは	地域組織活動の歴史 地域組織活動のおもな概念				講義	
2	当事者組織とは	当時者組織の歴史 当事者組織の機能と種類 当事者組織への保健師の支援				講義	
3	地域組織活動の展開	地域組織活動の展開 グループづくりの過程 地域組織活動で用いられる主な概念 ソーシャルキャピタル				講義	
4	地域組織活動の実際①	地域組織活動における保健師の支援とその意義 住民組織の自立支援における保健師の役割				講義	
5	地域組織活動の実際②	事例：住民ボランティア組織の育成と地域づくり				演習	
6	地区活動の概念	・公衆衛生看護の定義と公的責任 ・地区活動の目的・対象・方法 ・公衆衛生看護の対象としての地区（コミュニティ）				講義	
7	地域を「見る」「つなぐ」「動かす」	・地域特性と健康課題を捉える視点 ・地区情報の収集・分析・管理 ・住民組織における自助・共助の精神の育み方 ・関係諸機関との連携・協働 ・地域特性を活かした健康関連施策				講義	
8	個別・家族へのアプローチ	・家庭訪問の目的・対象・場 ・家庭訪問のプロセス(対象把握と優先順位) ・保健指導の目的・対象・場 ・対象のエンパワメントを高める保健指導				講義	
9	集団・グループへのアプローチ	・集団健康診査と個人健康診査の長所と短所 ・集団健康診査の種類 ・健康診査の事後フォロー ・健康教育の目的・対象・場・展開方法 ・グループ支援の展開方法				講義	
10	地域へのアプローチ	・ソーシャルキャピタルの醸成 ・地域ケアシステム・支援ネットワークの構築 ・住民との協働				講義	

11	施策化・事業化へのアプローチ	- 健康課題の優先度判断・計画立案・事業化・評価 - PDCA サイクル	講義	
12	地域ケアシステムの概念と必要な基本概念	- 地域ケアシステムの定義、地域ケアの対象者 - 地域ケアシステムの基盤となるもの - 制度化された地域ケアシステム	講義	
13	地域ケアシステムの構築と構造的転換	- 地域ケアシステムの発展過程 - 地域ケアシステム構築に必要な要素 - 地域ケアシステムにかかわる保健師の活動 - 病院の機能整備、介護保険制度と地域ケアシステム - 地域包括ケアシステムの構築	講義	
14	地域包括ケアシステムのネットワーク化と調整活動	- フォーマルサポートネットワーク - インフォーマルサポートネットワーク - 地域保健法における地域ケアの調整活動 - 関係機関・関係職種・住民とのネットワークと協働 - 地域ケアの原点、ALS 患者の事例のグループワーク - 地域包括ケアが求められる理由 - 地域包括支援センターの事業内容と基本機能	講義 演習	
15	地域包括ケアの動向と保健師活動	- 地域包括ケアが求められる理由 - 地域包括ケアシステムの展開 - 地域包括支援センターの事業内容と基本機能 - 地域包括ケアにおける保健師の個人・集団・地域全体へのアプローチ方法	講義	
テキスト		標準保健師講座 2 公衆衛生看護技術 医学書院		
参考書		- 保健師業務要覧第4版 日本看護協会出版会 - 標準保健師講座 1 公衆衛生看護学概論 医学書院 - 標準保健師講座別巻 1 保健医療福祉行政論 医学書院 - 標準保健師講座別巻 2 疫学・保健統計学 医学書院 - 国民衛生の動向 厚生労働統計協会		
自己学習への指針		予習復習をしっかりとし授業に臨むこと 日頃から新聞や国民衛生の動向に目を通し、読解力と語彙力を養いましょう。 社会情勢、特に保健医療福祉に関する法律の改正内容に関する情報をチェックする習慣を持ちましょう。		
評価方法		単位認定試験		

分野	専門分野	科目	公衆衛生看護支援Ⅳ (地域診断の展開)	単位	1	時間数	30
学年	3年	時期	後期	講師名	川嶋みなみ		
科目概要	地域診断は、地域で生活している人々の健康や生活の質の向上を目指し、看護の専門技術を駆使して活動展開方法を見出すための固有の診断であることを学ぶ。						
科目目標	1.日常の公衆衛生看護活動をとおして、人々の生活実態と健康課題との関係を把握できる。 2.保健統計、活動報告などの既存資料、地区踏査、地域の人々とのインタビューなどにより情報収集できる。 3.顕在化・潜在化している健康課題を統計学、疫学等の研究手法を用いて分析できる。						
回数	テーマ	学習内容				学習形態	備考
1	公衆衛生看護活動の展開における地域診断	1. 公衆衛生看護活動の展開の基本 2. 地域診断の基盤 3. 地域診断のすすめかた 4. 活用できる理論モデル 1) コミュニティアズパートナーモデル 2) プリシード・プロシードモデル				講義 DVD	
2	地域看護の活動プロセス①	1. 地域診断の方法①【コミュニティアズパートナーモデル】 1) 地域診断の概念 2) 地域特性 3) 情報収集、データ収集方法 4) アセスメント 5) 顕在化・潜在化している健康ニーズの分析 6) 活動目標 7) 活動計画立案 8) 活動の推進 9) 活動計画調整・見直し・評価				講義 演習	
3	地域看護の活動プロセス②	2. 地域診断の方法②【コミュニティアズパートナーモデル】 1) 地域集団の特性把握 2) 既存資料の分析 3) 住民ニーズの把握 4) 住民の意見聴取 5) 地区踏査、地区踏査計画作成				講義 演習	
4	地域看護の活動プロセス③					講義 演習	
5	地域看護の活動プロセス④					講義 演習	
6	地域看護の活動プロセス⑤					講義 演習	
7	地区踏査・地域診断①	1. 地区踏査の実際 (地勢、交通機関、保健医療福祉関連施設、コミュニティ) 2. 地域診断発表会準備データの整理 3. 健康課題の抽出 4. 市町村保健事業の整理				郊外演習 (雨天時 学内演習)	
8	地区踏査・地域診断②					郊外演習 (雨天時 学内演習)	
9	地区踏査・地域診断③					郊外演習 (雨天時 学内演習)	
10	地区踏査・地域診断④					郊外演習 (雨天時 学内演習)	

11	地域診断①	1. 地域についてのアセスメント（健康課題の抽出・整理）	学内演習	
12	地域診断②		学内演習	
13	地域診断③	1. 地域診断発表	演習	
14	地域診断④		演習	
15	地域診断講評		講義	
テキスト		標準保健師講座1 公衆衛生看護学概論 医学書院 地域看護アセスメントガイド 医歯薬出版（株） 国民衛生の動向 厚生労働統計協会		
参考書		系統看護 成人看護学1 成人看護学総論 医学書院 標準保健師講座3 対象別公衆衛生看護活動 医学書院 標準保健師講座2 公衆衛生看護技術 医学書院 標準保健師講座別巻 保健医療福祉行政論 医学書院 標準保健師講座別巻2 疫学・保健統計学 医学書院 最新保健学講座5 公衆衛生看護管理論 メヂカルフレンド社 保健師業務要覧 日本看護協会出版会 公衆衛生看護学 JP インターメディカル 公衆衛生がみえる メディックメディア 最新公衆衛生看護学 総論 日本看護協会出版会		
自己学習への指針		1. 疫学①有病率②罹患率③寄与危険度④相対危険度④年齢調整死亡率⑤バイアス 2. 保健統計①人口静態統計②人口動態統計 3. 予防の概念 ①1次予防・2次予防・3次予防 ②ポピュレーションアプローチ・ハイリスクアプローチ 4. 公衆衛生看護①プリシード・プロシードモデル ②コミュニティアズパートナーモデル ③特定健康診査④がん検診		
評価方法		出席状況、試験、提出物、授業態度		

9	地域診断演習	地域診断と健康課題を決定するための計画立案	講義 演習	
10				
11	地域診断演習		講義 演習	
12				
13	地域診断演習	グループごとに健康課題と計画を発表	演習	
14				
15	地域における 看護管理	政策・施策における保健師の役割	講義	
テキスト		標準保健師講座 1 公衆衛生看護学概論 医学書院 標準保健師講座別巻 1 保健医療福祉行政論 医学書院 地域看護アセスメントガイド 医歯薬出版（株） 国民衛生の動向 厚生労働統計協会		
参考書		標準保健師講座 2 公衆衛生看護技術 医学書院 標準保健師講座 3 対象別公衆衛生看護活動 医学書院 標準保健師講座別巻 I 保健医療福祉行政論 医学書院 標準保健師講座別巻 2 疫学・保健統計学 医学書院 最新保健学講座 5 公衆衛生看護管理論 メヂカルフレンド社 公衆衛生が見える メディックメディア 最新公衆衛生看護学 総論 日本看護学協会出版会		
自己学習への 指針		1. 行政機関①厚生労働省②保健所③市町村保健センター④地方公共団体 2. 社会資源①インフォーマルサービス②フォーマルサービス 3. 保健事業①母子・成人・高齢者・精神・難病・障害者 4. 地域診断の展開方法		
評価方法		出席状況、試験、提出物、授業態度		

分野	専門分野	科目	公衆衛生看護活動展開論Ⅰ (母子保健活動)	単位	1	時間数	30
学年	2年	時期	後期	講師名	川嶋　みなみ		
科目概要	生涯を通じた健康の出発である母子保健活動は、次世代を健やかに育てる基盤となる。母子を取り巻く環境が大きく変化するなか、母子保健活動における制度と理論、健康課題と支援方法の基本的知識について学ぶ。						
科目目標	1 母子保健活動の意義・目的・動向を理解する 2 母子保健の関連法規について理解する 3 乳幼児期の発育・発達および生活の特徴と保健指導を理解する 4 女性のライフステージに応じた健康課題と支援方法を理解する 5 支援ニーズの高い親子の健康課題と支援を理解する						
回数	テーマ	学習内容			学習形態	備考	
1	母子保健の理念	・ 母子保健および女性の健康に関する理念・概念			講義		
2	母子健康関連指標の推移①	・ 指標 出生率、合計特殊出生率、乳児死亡率、周産期死亡率、妊産婦死亡率の定義・計算方法・分析方法			課題		
3	母子健康関連指標の推移②	・ 指標 出生率、合計特殊出生率、乳児死亡率、周産期死亡率、妊産婦死亡率の分析結果から読み取れる健康課題			講義		
4	母子保健施策の推移①	・ 社会情勢の変化 ・ 母子関連法規			講義		
5	母子保健施策の推移②	・ 母子保健施策の4本柱 健康診査・保健指導・療養援護・医療対策			講義		
6	母子保健施策の推移③	・ 市町村・保健所における母子保健活動 ・ 健やか親子21、次世代育成支援対策 ・ 妊娠の届出と母子健康手帳の交付			講義 演習①		
7	母性各期の健康課題と保健指導①	・ 思春期の健康課題と保健師活動			講義		
8	母性各期の健康課題と保健指導②	・ 成熟期 妊娠・出産に伴う保健師活動			講義		
9	母性各期の健康課題と保健指導③	・ 更年期の健康課題と保健師活動			講義		
10	乳幼児の成長発達と保健指導①	・ 乳幼児の成長発達・生活			講義		
11	乳幼児の成長発達と保健指導②	・ 乳幼児健康診査・身体計測 4か月健康診査、1歳6か月児健康診査、3歳児健康診査 新生児訪問			講義 演習②		
12	乳幼児の成長発達と保健指導③	・ 乳幼児の予防接種			講義		
13	乳幼児の成長発達と保健指導④	・ 乳幼児期の事故の特徴と事故防止、保健指導			講義 演習③		

14	健康上のリスクを持つ母子への保健指導①	心身障害児や勤労女性を対象とした支援やサービス	講義	
15	健康上のリスクを持つ母子への保健指導②	・子どもの虐待・女性への暴力 ・ひとり親や外国人母子の現状 ・地域のサポートシステムや社会資源	講義	
テキスト	標準保健師講座 3 対象別公衆衛生看護活動 医学書院 標準保健師講座別巻 1 保健医療福祉行政論 医学書院			
参考書	国民衛生の動向 厚生労働統計協会 最新保健学講座3 公衆衛生看護活動論1 メヂカルフレンド社 第4版 公衆衛生看護学.jp インターメディカル			
自己学習への指針	1 母性看護学・小児看護学の復習をしましょう。 2 各講義終了後に必ず復習しましょう。(配布プリントを自分でまとめましょう) 3 授業内容と保健師国家試験問題を関連付けて学習しましょう。			
評価方法	単位認定試験 課題提出・内容、演習の取り組み態度			

分野	専門分野	科目	公衆衛生看護活動展開論Ⅱ (成人保健活動)	単位	1	時間数	30
学年	2年	時期	後期	講師名	専任教員		
科目概要	地域における成人保健活動を支える理念・概念を基に、成人保健の目的として住民一人ひとりが健康増進の観点に立って、高齢社会へ向けて自ら健康管理でき、社会人としての役割が果たせるよう健康面からはたらきかけることを学ぶ。						
科目目標	1. 成人期は自分自身の生活習慣を見直し、早世や障がいを予防する時期であることを理解できる。 2. 成人期の保健活動は一次予防と二次予防を中心とし、個人・集団へのアプローチをさまざまな部門と連携して実施することを理解できる。						
回数	テーマ	学習内容				学習形態	備考
1	成人保健とは	1. 成人保健の理念・目的について学習する。 1) 成人保健の理念 2) 成人保健の動向 2. 成人保健施策 1) 高齢者医療確保法における生活習慣病対策 2) 健康増進法 3) 健康日本21				講義	
2	成人保健における健康課題と支援①	3. 成人保健活動の実際 1) 健康増進事業 2) 成人期における保健師活動 対象者のセルフケア能力の向上(一次予防)、健康診査活動等とおした健康度評価と適切な医療への橋渡し(二次予防)、健康障害の進行防止(三次予防)、事業評価と社会資源の整備				講義	
3	成人保健における健康課題と支援②	3) 特定健康診査・特定保健指導 内臓脂肪型肥満に着眼した早期介入・行動変容、データヘルス計画、予防・健康づくりに対するインセンティブ制度、評価				講義 演習	
4	成人保健における健康課題と支援③	4) 健康づくりと地域ヘルスケアシステム				講義 演習	
5	成人期のおもな生活習慣病と保健活動①	4. 成人期のおもな生活習慣病と保健指導 1) メタボリックシンドローム メタボリックシンドロームとは、保健指導				講義 演習	
6	成人期のおもな生活習慣病と保健活動②	2) 高血圧 高血圧とは、保健指導 3) 脂質異常症 脂質異常症とは、保健指導				講義 演習	
7	成人期のおもな生活習慣病と保健活動③	4) 糖尿病 糖尿病とは、保健指導 5) 骨粗鬆症 骨粗鬆症とは、保健指導				講義 演習	
8	成人期のおもな生活習慣病と保健活動④	6) 悪性新生物 悪性新生物による死亡の実態、患者数・罹患率、がん対策基本法とがん登録の推進と結果の活用、原因と危険因子、保健指導				講義	

9	成人期のおもな生活習慣病と保健活動⑤	7) 成人期におけるメンタルヘルス	講義 演習	
10	成人期の生活と保健指導①	1. 成人を対象にした健康相談 1) 信頼関係の形成 2) 意思決定への支援 3) アドヒアランス	講義 演習	
11	成人期の生活と保健指導②	2. 電話やメールによる健康相談 1) 傾聴 2) 情報収集 3) 守秘義務	講義 演習	
12	成人期の生活と保健指導③	3. 成人の保健指導実施①【特定保健指導計画の作成】	講義 演習	
13	成人期の生活と保健指導④	4. 成人の保健指導実施②【特定保健指導、ロールプレイ】	演習	
14				
15	総括		講義	
テキスト		標準保健師講座2 公衆衛生看護技術 医学書院 標準保健師講座3 対象別公衆衛生看護活動 医学書院 標準保健師講座別巻1 保健福祉行政論 医学書院 国民衛生の動向 厚生労働統計協会		
参考書		系統看護学講座 成人看護学1 成人看護学総論 医学書院 系統看護学講座 老年看護学 医学書院 系統看護学講座 在宅看護論 医学書院 系統看護学講座 看護関係法令 医学書院 標準保健師講座1 公衆衛生看護学概論 医学書院 最新保健学講座3 公衆衛生看護活動論1 メヂカルフレンド社 最新保健学講座別巻1 健康教育論 メヂカルフレンド社 公衆衛生がみえる メディックメディア 第4版 公衆衛生看護学.jp インターメディカル 最新公衆衛生看護学 各論3 日本看護協会出版会		
自己学習への指針		1. 健康の定義 ①WHO 憲章②健康寿命 2. 予防の概念 ①1次予防・2次予防・3次予防 ②ポピュレーションアプローチ・ハイリスクアプローチ 3. 国民健康づくり対策①健康日本21（3次） 4. 生活習慣病①生活習慣病とは②BMI 計算③血圧、血液検査正常値④特定健診検査項目 ⑤高血圧、糖尿病患者の生活指導（食事・運動・飲酒・喫煙） 5. 保健指導の展開		
評価方法		出席状況、試験、提出物、授業態度		

分野	専門分野	科目	公衆衛生看護活動展開論Ⅲ (障害・精神・難病)	単位	1	時間数	30
学年	3年	時期	前期	講師名	佐藤 香織		
科目概要	公衆衛生の理念を踏まえ、障害者（児）・精神障害者・難病患者とその家族が、自らの健康課題を主体的に改善できるように、地域における切れ目のない支援体制について学ぶ。						
科目目標	1 障害者（児）・精神障害者・難病患者の健康課題に応じた個人・家族の生活と健康状態をアセスメントし、適切な援助方法および他職種連携について理解する。 2 障害者（児）・精神障害者・難病患者を取り巻く地域の課題を把握し、地域ケアシステム構築のあり方について理解する。						
回数	テーマ	学習内容				学習形態	備考
1	障害者（児）保健医療福祉の動向	・障害者保健の理念 ・ノーマライゼーション、インクルーシブな開発 ・海外の障害者福祉施策と日本の障害者福祉施策 ・障害者（児）保健医療福祉の歴史的変遷 ・障害者プラン、新障害者プラン				講義	
2	障害者（児）福祉関係法規 ①	・障害者基本法制定の社会背景と変遷 ・児童福祉法制定の社会情勢と改正内容 ・身体障害者福祉法制定の社会情勢と改正内容				講義	
3	障害者（児）福祉関係法規 ②	・障害者総合支援法制定の社会背景と変遷 ・障害者総合支援法のサービス体系 ・障害者雇用促進法 ・障害者虐待防止法 ・障害者差別解消法				講義	
4	障害者保健活動 ①	・ICIDH、ICF ・身体・知的・発達障害の特徴 ・障害者とその家族への支援 ・二次障害の予防および自立支援 ・地域における支援体制づくりと環境整備				講義	
5	障害者保健活動 ②	・実践場面から学ぶ障害児への支援 「人工呼吸器を装着した児の事例」から地域ケアシステムの構築について学ぶ。 個人ワーク・グループワーク・発表で学びを共有				演習①	
6	精神保健医療福祉の動向	・精神保健の理念 ・精神保健医療福祉の歴史的変遷 ・地域精神保健福祉施策 ・地域精神保健における保健所・市町村の役割				講義	
7	精神保健医療福祉関係法規 ①	・精神衛生法から精神保健法への改正内容 ・精神保健法から精神保健福祉法への改正内容				講義	
8	精神保健医療福祉関係法規 ②	・障害者基本法 ・知的障害者福祉法 ・障害者総合支援法における精神障害者対策 ・発達障害者支援法 ・自殺対策基本法				講義	
9	精神障害者の生活の支援 ①	・精神障害者の生活の特徴 ・精神障害者への支援（コンサルテーション、エンパワメントの付与） ・社会復帰・再発防止への支援				講義	

10	精神障害者の生活の支援 ②	- 実践場面から学ぶ精神障害者への支援 「統合失調症患者の事例」から、地域のサポートシステム、社会資源の活用方法について学ぶ - 個人ワーク・グループワーク・発表で学びを共有	演習②	
11	社会病理を背景とする精神的問題	・アディクション（嗜癖）とは ・アルコール依存、薬物依存、摂食障害 ・うつ、自殺、引きこもり ・DV（ドメスティックバイオレンス） ・地域において支援が必要な精神疾患・精神障害	講義	
12	難病対策の動向	・難病対策の歴史的変遷 ・難病対策要綱 ・難病保健医療福祉の充実、QOL 向上を目指した福祉施策	講義	
13	難病保健医療福祉関係法規	・障害者総合支援法における難病対策 ・難病の患者に対する医療等に関する法律	講義	
14	難病患者への支援・保健活動 ①	・難病患者と家族の特徴 ・患者・家族への支援 ・ALS 患者の事例から療養支援チームの構築について学ぶ - 個人ワーク・グループワークで学びを共有	講義 演習③	
15	難病患者への支援・保健活動 ②	・難病対策における地域診断、難病対策課題の施策化 ・保健所における難病対策事業 ・地域ケアシステムの構築と多職種連携	講義	
テキスト	標準保健師講座3 「対象別公衆衛生看護活動」 医学書院			
参考書	国民衛生の動向 厚生労働統計協会 標準保健師講座1 地域看護学概論 医学書院 標準保健師講座2 地域看護技術 医学書院 標準保健師講座別巻1 保健医療福祉行政論 医学書院 公衆衛生がみえる MEDIC MEDIA			
自己学習への指針	① 講義終了後、その日のうちに授業内容の復習を習慣づけ（5分でも10分でも）、知識の定着を図りましょう。その学習習慣が保健師国家試験対策に繋がります。 ② 国民衛生の動向や新聞を熟読し、読解力・語彙力を養いましょう。（音読が効果的） ③ 保健医療福祉関連法規制定の時代背景を押さえましょう。（なぜ、その法律が制定されたのかその理由がわかると、その法律内容について更に理解が深まります。） ④ 保健師国家試験過去問題の学習を並行して行いましょう。			
評価方法	単位認定試験			

分野	専門分野	科目	公衆衛生活動展開論Ⅳ (高齢者・歯科保健)	単位	1	時間数	30
学年	3年	時期	前期	講師名	佐藤 香織		
科目概要	高齢化の進展および疾病構造の変化を踏まえ、生活習慣病の予防、社会生活を営むために必要な機能の維持および向上等により、健康寿命の延伸を実現するための支援活動を学ぶ。						
科目目標	1 地域における高齢者の健康課題やニーズを把握し、その支援方法を理解する。 2 高齢者の保健医療福祉施策について理解する。 3 高齢者における歯科口腔の保持・増進は、健康で質の高い生活を営むうえで基礎的かつ重要な役割を果たしていることを理解する。						
回数	テーマ	学習内容				学習形態	備考
1	高齢者保健医療福祉の動向①	・ 高齢者保健の理念 高齢化の進展の変遷				講義	
2	高齢者保健医療福祉の動向②	・ 施策の歴史的変遷 老人福祉法・老人保健法・ゴールドプラン・介護保険法・高齢者医療確保法				講義	
3	高齢者保健医療福祉の動向③	・ 高齢者の保健福祉施策 老人福祉法・高齢者医療確保法・介護保険法 介護保険の仕組み・介護保険の財源				講義	
4	高齢者保健医療福祉の動向④	・ 介護保険法に基づく介護サービス 介護予防事業・地域包括支援センター				講義	
5	高齢者の健康課題と支援①	・ 高齢者の特徴 ・ 介護予防 ・ 自立した生活を維持するための生活支援				講義	
6	高齢者の健康課題と支援②	・ 複数の疾患を抱える高齢者 ・ 独居、高齢者のみ世帯 ・ 要支援、要介護者高齢者と家族への支援				講義	
7	高齢者の健康課題と支援③	・ 終末期にある高齢者と家族 ・ 高齢者虐待、セルフネグレクト ・ 保険者・介護保険事業者・地域支援事業者との連携、地域ケアシステムの構築				講義	
8	在宅高齢者と家族への支援①	・ 認知症高齢者とその家族への支援 ・ 閉じこもり、高齢者虐待への支援				講義	
9	在宅高齢者と家族への支援②	・ 地域のサポートシステムと社会資源 高齢者福祉サービス・民生委員・成年後見制度				講義	

10	在宅高齢者と家族への支援③④	・在宅高齢者と家族への支援 ～事例から学ぶ～	演習 講義	
11				
12	在宅高齢者と家族への支援⑤	・在宅高齢者と家族への支援	講義	
13	歯科保健の動向	・歯科口腔保健の理念と変遷 ・歯科保健統計 ・ライフサイクルと健康レベルに応じた歯科保健	講義	
14	口腔の健康の保持と歯科保健活動	・う蝕の予防 ・歯周疾患予防 ・口腔機能・嚥下機能の低下の予防 ・在宅療養者における口腔疾患の予防	講義	
15	高齢者と保健活動	・高齢者が自立した生活をおくるための支援 ・社会資源を活用した支援	講義	
テキスト		標準保健師講座3 対象別公衆衛生看護活動 医学書院 標準保健師講座別巻1 保健医療福祉行政論 医学書院		
参考書		国民衛生の動向 厚生労働統計協会 系統看護学講座 歯口腔 成人看護学 医学書院 系統看護学講座 老年看護学 医学書院 系統看護学講座 在宅看護論 医学書院 系統看護学講座 看護関係法令 医学書院 標準保健師講座1 公衆衛生看護学概論 医学書院 標準保健師講座2 公衆衛生看護技術 医学書院 最新保健学講座3 公衆衛生看護活動論1 メヂカルフレンド社 公衆衛生がみえる メディックメディア 第4版 公衆衛生看護学.jp インターメディカル		
自己学習への指針		1 介護保険制度 ①高齢化率 ②社会保障の4本柱 ③社会保険の種類 ④保険制度とは（保険者、被保険者）⑤介護認定の流れ ⑥地域包括支援センターの役割 2 関係法規 ①健康増進法 ②高齢者医療確保法 ③老人福祉法 ④介護保険法		
評価方法		単位認定試験		

分野	専門分野	科目	公衆衛生看護活動展開論Ⅴ (産業保健)	単位	1	時間数	30
学年	3年	時期	後期	講師名	中村泰子		
科目概要	保健師の活動の場としての職場生活集団の健康を守るための実践能力を強化する視点で学ぶ。 産業保健とは何かを明らかにする。 労働者の置かれている状況を時代背景とともに考察し労働者の健康と作業能力を維持・増進、安全と健康をもたらす産業保健活動を学ぶ。						
科目目標	1 産業保健の制度とシステムについて理解する。 2 産業保健の目的および産業保健における保健師の役割について理解する。 3 労働衛生の現状および多様化する労働者および雇用形態への対応について理解する。 4 産業保健における健康課題への対策と支援について理解する。						
回数	テーマ	学習内容			学習形態	備考	
1	産業保健の目的と産業保健活動における保健師の役割	・産業保健の目的 ・産業保健活動とは ・産業保健活動の対象 ・産業看護および保健師の役割とは			講義		
2	産業保健の歴史	・日本における産業保健の変遷と社会背景、世界の歴史 主要な法規の制定にそって 工場法、労働基準法、じん肺法、労働安全衛生法 労働安全衛生マネジメントシステムに関する指針 ・産業における看護職の活動の歴史			講義		
3	産業構造の変遷	・産業別就業者数の推移 ・女性の労働、・海外派遣労働者、・外国人労働者 ・高齢の労働者			講義		
4	産業保健の制度とシステム	・労働安全衛生に関する法体系と法令の概要 日本国憲法・生存権・労働基本権と労働関連法 労働基準法、労働者災害補償保険法、じん肺法 労働安全衛生法 労働者保護のための法令			講義		
5	労働安全衛生に係る行政の体系 社会資源	・労働衛生行政体系 厚生労働省・労働基準局、都道府県・労働局、労働基準監督署 ・産業保健における関係機関・社会資源 企業外労働衛生機関、産業保健総合支援センター、 地域産業保健センター、地域障害者職業センター、			講義		
6	労働安全衛生法を中心とした法体系	・一般健康診断 ・特殊健康診断 ・健康診断結果の事後措置 ・事業者の安全配慮義務と労働者の自己保健義務			講義		
7	産業保健を担う職種・組織	・安全衛生管理体制 総括安全衛生管理者、衛生管理者、安全管理者、安全衛生・衛生推進者、産業医 ・労働安全衛生マネジメントシステム、リスクアセスメント			講義		
8	労働衛生管理	・労働衛生の3管理・5分野 作業環境管理、作業管理、健康管理、労働衛生教育、総括管理			講義		

9	産業保健における健康課題への対策と支援 産業保健の現状	- 労働災害発生状況 発生状況の推移 業種別および事故の型別の死傷災害発生状況 死亡災害発生状況、死傷災害発生状況 事業場規模別、年齢別死傷災害発生状況 - 業務上疾病 - 脳・心臓疾患および精神障害などに関する労働災害補償 - 健康診断結果	講義	
10	健康課題への対策と支援	- 職業性疾病・作業関連疾病 - 生活習慣病対策、過重労働対策、喫煙環境対策 - ワークライフバランス - VDT 作業による健康被害への対策 - 心身症とメンタルヘルスの不調	講義	
11	職場におけるメンタルヘルス	- 働く人々のメンタルヘルスの現状 - メンタルヘルス対策 労働者の心の健康の保持増進のための指針 職場復帰支援 ストレスチェック制度について メンタルヘルスに関する職場風土の醸成 ポジティブメンタルヘルス 非定型うつ病への対応	講義	
12	多様化する労働者および雇用形態への対応	- 女性労働者への支援、ハラスメント - 高齢労働者への支援 - 障害者への支援 - 多様な雇用形態に対応した健康管理 - 疾病を抱える労働者への就業継続支援 - 小規模事業場における産業保健・看護活動	講義	
13	産業保健活動の実際・職務	- 総括管理、作業環境管理、作業管理、健康管理、労働衛生教育、産業保健計画の立案と評価 - 保健師・第一種衛生管理者の活動の実際 健康診断、保健指導、健康相談、健康教育、健康づくり活動（THP）、職場巡視	講義	
14	メンタルヘルスへの支援・保健師活動	- 過重労働によるメンタル不調を訴える労働者への支援 - 個別ワーク、グループワーク、共有	演習	
15	産業保健・看護における課題	- 地域保健（保健所・市町村）と職域保険の連携 - 産業保健組合との連携 - 産業保健のまとめ	講義	
テキスト		標準保健師講座3 対象別公衆衛生看護活動 医学書院		
参考書		産業看護学 第2版 河野啓子著 日本看護協会出版会 国民衛生の動向 厚生労働統計協会 公衆衛生看護学 JP インターメディカル		
自己学習への指針		最近の国家試験には時事問題が出題される傾向にあることから、労働者の雇用問題や労働災害などについて新聞やTVニュースに関心を持ち問題意識を持つ。		
評価方法		単位認定試験		

分野	専門分野	科目	公衆衛生看護活動展開論Ⅵ (学校保健)	単位	1	時間数	30
学年	3年	時期	前期	講師名	太田静江		
科目概要	公衆衛生看護活動の3本柱である地域保健・学校保健・産業保健として、幼児・児童・生徒の健康問題を、現実 に即して捉え、支援の方法を学ぶ。また、3分野の連携について考察する。						
科目目標	1.学校保健の主要な関連法規について理解できる。 2.学校保健の領域・内容について理解できる。 3.発達段階別にみる対象の特徴と健康課題への対策と支援について理解できる。 4.学校環境衛生および学校給食・食育・衛生管理について理解できる。						
回数	テーマ	学習内容			学習形態	備考	
1	ガイダンス 学校保健・看護の基本	公衆衛生看護活動としての学校保健とは？ 学校保健・看護の役割・機能 学校保健の目的 学校保健の対象範囲―学校とは？			講義	テキスト p231	
2	学校保健・学校看護の歴史	学校看護職の誕生 社会背景 戦後の学校保健 養護教諭の誕生と活動			講義		
3	学校保健の制度とシステム	1 学校保健の組織―保健教育・健康管理・組織活動 2 学校保健に関する法体系―教育基本法・学校教育法・学校保健安全法			講義		
4	学校保健に関係する職種	各職種と学校保健の関わり			講義		
5	保健学習・保健指導	保健学習の実際 保健指導・健康相談・健康教育の関係			講義		
6	保健管理	学齢期の死因 学校管理下での事故・・・管理下とは？ 日本スポーツ振興センターの役割			講義		
7	学校環境衛生・学校給食	学校環境衛生の基準等 学校給食法、食育			講義	プリント参照	
8	学校保健・看護の現状 健康課題	1 エリクソンの発達課題と学校保健 2 発達段階別健康課題 3 不登校とは？			私の体験した事例から学ぶ		
9	3 いじめ・虐待	いじめとは？ 虐待の現状 いじめと虐待に関する学校の役割			アクティブラーニング	プリント	
10	4 特別支援教育	特別支援教育の種類 特別支援学校・特別支援学級 特別な支援を必要とする子供への対策と支援（発達障害・医療的ケア・性同一性障害・若年妊婦）			講義		
11	養護教諭の職務と保健室の機能	1 養護教諭の役割と位置づけ 2 保健室の機能と運営 3 学校保健計画 4 救急処置と救急体制			講義		

12	健康診断と事後指導	健康診断の種類 検査項目 事後指導	講義	
13	感染症の予防と対策	感染症予防と対策ー疫学の知識の必要性 感染症法と学校感染症の相違 感染予防と出欠管理	講義	
14	地域保健・学校保健との連携 事例演習	学校組織活動 地域の関係機関との連携・協働の必要性	講義	プリント
15	公衆衛生看護と学校保健 まとめ	学校保健統計の分析 社会情勢と学校保健の展望		プリント
テキスト		標準保健師講座3「対象別公衆衛生看護活動」 医学書院		
参考書		新聞・テレビ等のメディアからの学校保健問題を常に捉え、現状を把握し、問題意識を持つ。 公衆衛生看護学概論 教育学 社会学 心理学 家族関係論 専門基礎分野Ⅰ 専門基礎分野Ⅱ等の科目の振り返りを行い、関連性を持つ。		
自己学習への指針		国民衛生の動向 子どものからだと心白書 こども連絡会議 「基礎から学ぶ学校保健」 建帛社		
評価方法		授業参加態度 10%（特にアクティブラーニングでの取り組み方等） 定期試験 90%として総合評価する。		

分野	専門分野	科目	公衆衛生看護活動展開論Ⅶ (感染症の保健活動)	単位	1	時間数	30
学年	4 年	時期	前期	講師名	池田 紀子・北崎 美祈		
科目概要	健康危機管理における感染症保健活動についての概要である。 感染症等への予防策を講じ発生時および発生後適切に対応する健康危機管理能力を学ぶ。 広域的視点も踏まえて平常時から健康危機管理の体制を整備し健康危機の発生から発生後の健康課題を早期に発見し迅速かつ組織的に対応する能力を学ぶ。						
科目目標	1 平時・発生時および発生後の対応における具体的な健康危機管理能力と保健師の役割を理解する。 2 感染症対策の歴史的変遷および法体系について理解する。 3 感染症対策の基盤となる感染症法の目的・内容を理解する。 4 重要な感染症についての動向・予防対策および疾病管理について理解する。 5 予防接種法に基づく施策と保健師活動について理解する。						
回数	テーマ	学習内容			学習形態	備考	
1	感染症対策関係法令	・伝染病予防法から感染症法への歴史 ・感染症に関する現行法 予防接種法、検疫法、感染症法、肝炎対策基本法			講義		
2	感染症の動向	・感染症保健活動の理念と変遷 ・感染症の動向、感染症対策の変遷 ・新興・再興感染症			講義		
3	感染症対策の体制 ①	・感染症法の目的・基本理念 ・感染症法の特徴 ・事前対応型行政、患者の人権に配慮			講義		
4	感染症対策の体制 ②	・感染症疾病類型の設定 1 類～5 類型・新感染症等、届出基準、動向調査 ・WHO および各国の感染症対策 ・検疫所・防疫所・医療機関との連携			講義		
5	予防接種	・予防接種に関する基本的な計画 ・接種法、予防接種による健康被害の救済 ・予防接種の種類 定期・任意・臨時予防接種、ワクチンの種類、接種間隔 ・予防接種における保健師の支援			講義		
6	感染症予防施策と保健師活動	・感染症成立の3大要因、感染予防の3原則 ・感染症の流行 アウトブレイク、エンデミック、エピデミック パンデミック ・新型コロナ感染症と保健師活動			講義		
7	疾病管理 1 結核対策①	・結核対策のあゆみ ・結核予防法から感染症法へ ・結核患者の動向および状況			講義		
8	結核対策②	・結核・潜在性結核対策 結構診断・予防接種、接触者健康診断、患者管理、結核医療 ・結核に関する特定感染症予防指針 DOTS（直接服薬確認）推進・強化			講義		
9	結核対策③	・結核対策における保健師の役割 初動調査、初回面接、接触者健診 DOTS 推進への継続的支援 結核に対する正しい知識の普及と偏見・差別の是正			講義		
10	疾病管理 2 HIV 感染症・エ	・世界・日本における HIV・エイズの動向と現状 ・日本における HIV・エイズ対策の経緯			講義		

	イズ・性感染症	・HIV・エイズ、性感染症対策における保健師活動 ・地域における HIV・エイズ対策、学校・企業との連携 ・HIV・エイズ、性感染症の正しい知識の普及・啓発 ・性感染症の動向および対策		
11	疾病管理 3 肝炎・腸管出血性大腸菌感染症	・ウイルス性肝炎の基礎知識と予防 ・肝がんの予防、肝炎対策 ・腸管出血性大腸菌感染症の基礎知識、予防、保健師活動	講義	
12	感染症集団発生時の保健活動①	・集団発生の定義 ・初動調査と症例定義 ・集団発生時における調査	講義	
13	感染症集団発生時の保健活動②	・集団発生時の保健活動	講義	
14	結核患者への支援・保健師活動	・結核の事例から保健所保健師の支援の実際について ・個人ワーク・グループワーク・発表で学びの共有 ・事例：大学生男性・両親と同居、結核発症したケースへの支援 ・個別ワーク・グループワーク、共有	演習	
15				
テキスト		標準保健師講座 3 対象別公衆衛生看護活動 医学書院		
参考書		標準保健師講座別巻 1 保健医療福祉行政論 医学書院 標準保健師講座別巻 2 疫学・保健統計学 医学書院 国民衛生の動向 厚生労働統計協会 最新公衆衛生看護学各論 1 日本看護協会出版会 公衆衛生看護学 JP インターメディカル		
自己学習への指針		日常生活、新聞・TV などから世界や国内の感染症に関する問題点をとらえ、現状把握、問題意識を持ち保健師活動について関心を持つ。 履修済み科目（公衆衛生看護学概論、保健医療福祉行政論、疫学・保健統計学、基礎分野、専門基礎分野等）で学んだことを振り返り授業内容を確認たる知識とするよう努める。		
評価方法		単位認定試験		

分野	専門分野	科目	公衆衛生看護活動展開論Ⅷ (生命と暮らしを守る公衆衛生看護活動)	単位	1	時間数	15
学年	4 年	時期	後期	講師名	上條 英之		
科目概要	保健師が取り組む健康課題は、社会のニーズと行政施策に直結して変遷してきた。その保健師活動は、現代に継承すべき実践能力へと発展してきている。その保健師活動の変遷を法制度の変革と併せて、戦前、戦後、地域保健法制定後に区分して概観する。その時代、時代の保健師活動の実践が積み重ねられ、わが国の特有の公衆衛生看護活動体制の礎が築かれてきた。対象をとらえる視点、何を目指し、何を大切に実践に発展してきたのか。保健師の業務は応用性が高いからこそ、基礎力を身につける能力習得が欠かせない。保健師の特性を探求するうえでも実践から学ぶことは必要である。その上で、差し迫る今日的課題を担える人材育成として「地域における保健師の保健活動に関する指針」を主体的に学生が学べるよう教授する。						
科目目標	1 保健師助産師看護師法 公衆衛生看護学の基盤となる法令・定義、日本国憲法第 25 条、WHO 健康の定義 ウィンスローの定義 PHC、ヘルスプロモーション等を理解する。 2 法制度の変革と保健師活動の変遷を保健婦指定規則から地域保健法制定後を 3 区分で概観し、公衆衛生看護活動の対象をとらえる視点や何を大切に実践してきたのか理解する。 3 2013 年に示された「地域における保健師の保健活動に関する指針」を学び、その専門性を発揮した活動が理解できる。						
回数	テーマ	内容					
1	「保健師とは」 公衆衛生看護学の基盤	保健師助産師看護師法 日本国憲法第 25 条の解説 ウィンスローの定義 WHO の「健康の定義」(原文引用) PHC、ヘルスプロモーション 公衆衛生看護学会の「公衆衛生看護」「公衆衛生看護学」の定義等				講義	
2	公衆衛生看護対象・活動方法の特徴	生活を営む人々、失業や貧困などの社会的決定要因や異常気象や大気汚染など環境的決定要因、活動方法の特徴 ウィンスローの定義とオタワ憲章から(保健師業務要覧参照) 論説、保健師が業とする保健指導の変遷と展開の概要				講義	
3	法制度の変革と保健師活動の変遷 ①	保健婦指定規則から保健師助産師看護師法制定前における保健師の国民的健康課題とその取り組みを学ぶ				講義	
4	法制度の変革と保健師活動の変遷 ②	保健所法全面改正から地域保健法制定までの期間、保健師の国民的健康課とその取り組みを学ぶ				講義	
5	法制度の変革と保健師活動の変遷 ③ 国の動きと保健師の活動の変遷	地域保健法(地方分権)から現在まで保健師の国民的健康課題とその取り組みを学ぶ。 国の動きと保健師の活動の特徴を概観。 保健所保健師活動の課題と展望、市町村保健師の課題を展望				講義	
6	「地域における保健師の保健活動に関する指針」を学ぶ	平成 25 年健康局長から新たな指針が発出。今後、保健師活動に期待されている役割を受け止め、専門性が発揮できるよう国の動きに着目できる。				講義	
7	保健師助産師看護師学校養成所指定規則改正の変遷	保健師教育の時代背景 第 1 次から 5 次までの変遷の背景と特徴を理解できる。				講義	

8	実践例から学ぶ	生活のしづらさを抱える個人・家族支援をとおして、その問題が地域全体のものとして、地域住民とともに解決できるような仕組み形成に働きかける。さらには、地域で互助の担い手である関係団体や他の職種と連携・協調し、施策として安定的なサービスに発展させる実践例を選定する。		
	テキスト	保健師業務要覧 日本看護協会出版会		
	参考書	公衆衛生看護学 日本看護協会出版会		
	自己学習への指針	保健師活動の歴史観をもてる		
	評価方法	単位認定試験 学習小試験等		

分野	専門分野	科目	公衆衛生看護管理論Ⅰ (管理機能)	単位	1	時間数	30
学年	3年	時期	前期	講師名	専任教員		
科目概要	地域で生活するすべての人々を対象とし、関係者と協働・連携して行う地域保健活動の目的を円滑に遂行するために必要な公衆衛生看護管理機能について学ぶ。						
科目目標	1 公衆衛生看護管理の定義・目的・特徴を理解する。 2 公衆衛生看護管理の保健師に求められる機能について理解する。 3 公衆衛生看護管理機能、多職種連携について理解する。 4 公衆衛生看護活動の根拠となる法令について理解する。 5 保健師の職業倫理と自己研鑽、公衆衛生看護活動における研究について理解する。						
回数	テーマ	学習内容				学習形態	備考
1	公衆衛生看護管理の基礎知識	・行政保健師の基礎知識 ・行政組織について ・保健師の就労状況 ・市町村保健師の業務内容・成長過程				講義	
2	公衆衛生看護とは	・施設内(病院等)看護管理と公衆衛生看護管理の違い ・公衆衛生看護管理機能の概要 ・公衆衛生看護管理機能10項目 ・公衆衛生看護管理機能を担う保健師の期について				講義	
3	保健師のキャリアと人事管理	・統括保健師 ・組織運営と必要な組織管理 ・苦情・暴力への対応 ・保健師の人事管理				講義	
4	保健師の人材育成	・日本における公衆衛生看護の歴史 ・保健師教育の歴史 ・保健師教育課程の現状 ・保健師育成の実際 ・職員の能力開発、人材育成 SD（自己啓発）、OJT（職場内研修）、 Off-JT（職場外研修） ・ジョブローテーション（人事異動）、キャリアラダー ・職場におけるメンタルヘルス対策				講義	
5	予算管理	・予算管理・予算作成 ・保健事業の予算編成 ・予算を取り巻く現状 ・事業化と予算				講義	
6	情報管理	・情報管理の定義・目的 ・保健師の情報管理「使う」「出す」「守る」				演習②	
7	公衆衛生関係法令・基礎	・なぜ法令を学ぶ必要があるのか ・法律から見てくること（法律制定の時代背景） ・日本国憲法、保健師助産師看護師法、地域保健法、地方公務員法 ・法令における保健師の役割				講義	
8	公衆衛生関係法令	・地域保健法（保健所・市町村保健センター） ・健康増進法（健康日本21・国民栄養健康調査） ・高齢者医療確保法（特定健診・後期高齢者医療制度） ・生活保護法（現金給付・現物給付・福祉事務所）				グループワーク	

9		・母子保健法（健康診査・母子健康手帳・低出生体重児・養育医療給付） ・介護保険法（保険者・被保険者・要介護認定） ・障害者総合支援法（障害者とは・自立支援給付・地域生活支援事業） ・感染症法（感染症の分類・就業制限・結核） ・学校保健安全法（保健室・健康診断・出席停止） ・労働安全衛生法（衛生管理者・産業医・衛生委員会）	グループワーク	
10	公衆衛生関係法令・発表	その他の法律	グループワーク	
11			講義	
12	保健医療福祉に関わる職種	・言語聴覚士 ・視能訓練士 ・歯科衛生士 ・精神保健福祉士 ・社会福祉士 ・公認心理士 ・民生委員・児童委員	講義	
13	業務管理	・地域の健康課題解決への取り組み ・地域の健康課題の解決、組織の目標達成、PDCA サイクル管理、政策立案（地域のニーズの施策化） ・俯瞰力（事業・業務全体を見通す力）	講義	
14	公衆衛生看護と研究	・公衆衛生看護研究に求められるもの ・保健師の日常活動の中での研究的な視点 ・公衆衛生看護活動に関わる研究の場面 ・公衆衛生看護活動と研究における課題 ・公衆衛生看護研究事例の紹介	講義	
15	まとめ	・社会的信用の保持 ・フライが示した看護倫理の原則 善行と無害、正義、自律、誠実、忠誠 ・日本看護協会「看護職の倫理綱領 1～16 条」 ・キャリアパス、キャリアラダー、	講義	
テキスト		標準保健師講座 1 公衆衛生看護学概論 医学書 最新保健学講座 6 疫学/保健統計 メヂカルフレンド社 標準保健師講座別巻 1 保健医療福祉行政論 医学書院		
参考書		国民衛生の動向 厚生労働統計協会 保健師業務要覧 日本看護協会 千葉県保健所のしおり I 保健所事業概要 S 町事業概要 QB 保健師国家試験問題解説 MEDIC MEDIA		
自己学習への指針		① 各講義終了後、その日の内に授業内容の復習を習慣づけましょう（5 分でも 10 分でも） ② 国民衛生の動向の授業内容分野を熟読し、読解力・語彙力を養いましょう（音読が効果的） ③ 公衆衛生看護関連法規制定の時代背景を押さえましょう。（なぜ、その法律が必要であったのかが理解でき、法律内容についても理解が深まります。） ④ 保健師国家試験過去問題の学習で「公衆衛生看護管理」の理解度を確認しましょう。		
評価方法		単位認定試験（80%）、提出物・授業態度（20%）		

分野	専門分野	科目	公衆衛生看護管理論Ⅱ (健康危機管理)		単位	1	時間数	30
学年	4年	時期	前期		講師名	専任教員		
科目概要	本科目では、健康をおびやかす事象に対して、発生を予防し、拡大を防止し、被害を最小限に抑え、対応をふり返し、今後の対策に活用するといった一連の組織的な保健活動を学ぶ。また、大規模災害をはじめとした健康危機への予防策を講じ、発生時及び発生後に適切に対応できる健康危機管理能力を強化する。							
科目目標	1 平時からの健康危機管理体制、健康危機の発生予防や減災対策について理解する。 2 健康危機発生時における保健・医療・介護・福祉等システムの活用について理解する。 3 健康危機の発生から回復に向けた支援方法を理解する。							
回数	テーマ	学習内容				学習形態	備考	
1	健康危機管理①	・健康危機管理の定義 厚生労働省健康危機管理指針、ガイドライン ・健康危機管理の現状				講義		
2	健康危機管理②	・健康危機管理システムと保健所の役割 地域における保健師の保健活動に関する指針 ・リスクマネジメントの過程 リスクアセスメント、リスクコミュニケーション、事業継続計画（BCP）				講義		
3	健康危機管理③	・健康危機管理における保健師の機能と役割 保健所保健師、市町村保健師の役割 ・健康危機管理の種類に応じた保健活動 健康危機管理の対象				講義		
4	災害と保健概念①	・災害の種類と被害、疾病の特徴 自然災害、人為災害、特殊災害、複合災害 ・災害対策の変遷 ・災害に関する国の政策と法律				講義		
5	災害と保健概念②	・災害サイクルとフェーズ ・災害発生時の体制づくり ・災害に関する社会資源				講義		
6	平常時の保健師活動①	・配慮を必要とする人への支援 支援を必要とする要配慮者 ・住民主体による防災対策のための教育、普及、啓発 ・ソーシャルキャピタルの醸成 ・生活環境と暮らしをまもる支援				講義		
7	平常時の保健師活動②	・救護支援ネットワークの構築 ・外部支援組織 DMAT、DHEAT ・防災基盤の整備 防災の定義、減災と健康危機				講義		

8	災害時の 保健師活動①	・緊急対策期の保健師活動（フェーズ0・1） トリアージ、クラッシュ症候群 ・応急対策期の保健師活動（フェーズ2・3） 災害時に起こりやすい健康課題、避難所巡回	講義	
9	災害時の 保健師活動②	・保健、医療、介護、福祉システムの活用 ・原因究明と予防策を講じるには ・受援体制と支援体制のマネジメント	講義	
10	災害復旧・復興 期保健師活動①	・復旧・復興期の保健活動（フェーズ4） ・復旧支援期の保健活動（フェーズ5-1、5-2） ・復旧復興期の特徴的な健康問題と保健活動	講義	
11	災害回復期の 対策①	・被災者への健康支援 ・被災者のメンタルヘルス	講義	
12	災害回復期の 対策②	・新しいコミュニティづくり ・職員のメンタルヘルス ・災害ボランティアへの活動支援	講義	
13	災害時の 保健師活動③	・災害時の対応、保健活動 ～事例から考える、保健師としての保健活動～	講義 演習	
14				
15	その他の健康 危機管理	・健康危機管理の種類に応じた保健活動 感染症健康危機管理、児童虐待、放射線災害 等 ・健康危機管理における国際社会との連携	講義	
テキスト		標準保健師講座3 対象別公衆衛生看護活動 医学書院		
参考書		国民衛生の動向 厚生労働統計協会 最新保健学講座4 公衆衛生看護活動論2 メチカルフレンド社 最新保健学講座5 公衆衛生看護管理論 メチカルフレンド社 公衆衛生看護学 JP インターメディカル 最新公衆衛生看護学 各論1 日本看護協会出版 系統看護学講座 公衆衛生（健康支援と社会保障制度2） 医学書院 系統看護学講座 災害看護学・国際看護学（看護の統合と実践3） 医学書院 地域看護活動とヘルスポロモーション第4巻 新潟中越沖地震にみる災害看護活動（DVD）		
自己学習への 指針		履修済み科目と関連させて学びを深めましょう。また、資料整理、小テストの復習、授業と関連付けて新聞やTVなどを視聴しましょう。		
評価方法		単位認定試験		

分野	専門分野	科目	成人看護学概論	単位	1	時間数	15
学年	1 年	時期	後期	講師名	若槻 陽子		
科目概要	人間のライフサイクルにおける成人期の特徴を、身体面・精神面・社会面から理解するとともに、成人期にある看護の対象への看護活動についてその概要を学習する。						
科目目標	1. 成人期の区分と各発達課題の特徴、身体・精神・社会面、について理解する。 2. 成人期に関連する保健衛生の動向と施策について理解できる。 3. ヘルスプロモーションを促進する支援について理解する。 4. 成人の健康を脅かす要因や生活習慣病、職業病がわかり予防法について理解できる。 5. 健康問題をもつ大人への看護アプローチの基本を理解する。 6. 成人期にある人の健康レベルの枠組みと治療をする人の経過別看護の特徴が理解できる。						
回数	テーマ	学習内容			学習形態	備考	
1	成人と生活	1) 大人である成人の生涯発達の特徴 2) 成人各期の発達段階の特徴 3) 成人期の生活の特徴			講義		
2	生活と健康	1) 成人を取り巻く環境と生活からみた特徴 2) 成人の健康の状態 3) 生活と健康をまもりはぐくむ保健・医療・福祉システム			講義		
3	成人への看護アプローチの基本	1) 大人の学習と行動変容を促進するアプローチ 2) 症状マネジメント 3) 倫理的判断と意思決定支援 4) 家族支援			講義		
4	ヘルスプロモーションと看護	1) ヘルスプロモーションと個人の主体的な健康づくり 2) ヘルスプロモーションを促進する看護			講義		
5	健康を脅かす要因と看護	1) 健康バランスの構成要素 2) 生活行動がもたらす健康問題と予防			講義 GW		
6 7	成人期の経過別看護	1) 健康の急激な破綻と回復を支援する看護 2) 慢性病とともに生きる人を支える看護 3) 障害がある人の生活とリハビリテーション 4) 人生の最期の時を支える看護 5) グループワーク発表			講義 GW		
8	新たな治療法、先端医療と看護まとめ	1) 移植・再生医療 2) 新たな治療法や医療処置を受ける患者・家族の看護			講義		
テキスト		系統看護学講座 成人看護学〔1〕成人看護学総論 医学書院 国民衛生の動向 厚生労働統計協会					
自己学習への指針		・授業を受ける前にテキストを読み、概要に触れて出席してください。					
評価方法		単位認定試験 90% 課題レポート 10%					

分野	専門分野	科目	成人看護学方法Ⅰ (急性期看護)	単位	1	時間数	30
学年	2 年	時期	前期	講師名	川村 美恵子		
科目概要	生命の危機状態にある人を支える看護の方法を学習する。 急性期・救命救急期の人々の身体的・心理的・社会的特徴を踏まえ、家族を含めた健康課題やニーズ、心身への影響などに必要な看護実践の基盤を学びます。						
科目目標	1.生命の危機状況にある人の基本的看護を理解する。 2.急性期治療を必要とする人の看護を理解する。 3.事例から生命の危機状態にある人の起こりうる問題を予測した看護の方法を理解する。						
回数	テーマ		学習内容		学習形態	備考	
1	急性・重症患者の看護の基礎		1)急性期看護援助に必要な概念 2)生体侵襲における生体反応		講義		
2	救急看護の基礎		1) 救急看護援助に必要な概念 集中治療時の看護 危機状態への精神的援助 代理意思決定支援		講義		
3	生体モニタリングと看護		生体モニタリング（情報）を状態アセスメントと看護に活用する方法を学ぶ		講義 演習		
4	胸腔ドレーン挿入中の患者の看護		気胸の事例から、胸腔ドレーン挿入中の患者の看護の方法を学ぶ		講義	事前課題	
5	人工呼吸療法中の患者の看護		人工呼吸療法を行う患者の看護の基礎を学ぶ（虚血性心疾患患者の事例）		講義	事前課題	
6 7 8 9	循環器疾患を持つ患者看護		1) 循環器疾患を持つ患者の看護 虚血性心疾患 急性心不全 心臓リハビリテーション 2) 経皮的冠動脈インターベンションを受ける患者の看護		講義	事前課題	
10	救急時の看護技術		ACLS の知識・技術 院内急変時の対応		講義 GW	事前課題	
11 12	意識障害がある患者の看護		1) 意識障害を生じた患者の看護 2) クモ膜下出血を生じた患者の看護		講義		
13 14	救急処置を受ける患者看護		熱傷・熱中症・一酸化炭素中毒・外傷 出血性ショック・痙攣		講義		
15	急性期看護の課題		まとめ		講義		

テキスト	系統看護学講座 成人看護学総論 医学書院 系統看護学講座 成人看護学各論 循環器 呼吸器 脳神経
参考書	系統看護学講座 人体の構造と機能〔1〕 解剖生理学 医学書院 系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護学〔3〕 基礎看護技術Ⅱ 医学書院 系統看護学講座 臨床看護総論 医学書院 看護技術ベーシックス サイオ出版 その他、多数あるため、各自見やすい物を選択すること。
自己学習への 指針	既学習している解剖生理、各疾患の復習をして講義に臨んでください。
評価方法	単位認定試験、課題提出

分野	専門分野	科目	成人看護学方法Ⅱ (回復期看護)	単位	1	時間数	30
学年	2 年	時期	後期	講師名	中川 奈緒子		
科目概要	回復期とは「生命の危機から脱し、回復に向けた時期」であり、積極的にリハビリテーションが行われる。機能障害による身体・精神・社会・霊的側面への影響を捉え、生活の再構築のための自立・自律に向けた看護援助を学ぶ。また、機能回復を必要とする患者とその家族の心理を理解し、適応していくための援助方法を学ぶ。						
科目目標	1. 回復期、リハビリテーションの定義と医療チームにおける看護師の役割を理解できる 2. 機能障害による患者への影響を身体・精神・社会・霊的側面から理解できる。 3. 回復過程における患者とその家族が、生活の再構築をするための援助について考えることができる						
回数	テーマ		学習内容		学習形態		備考
1	回復期における看護		回復期看護とは、リハビリテーション、回復期にある患者の特徴、ICF 回復期における看護師の役割		講義		
2	脳神経疾患をかかえる患者への看護 「脳梗塞患者の看護」		脳神経障害とは 運動麻痺のある患者の看護		講義		事前学習 (脳神経)
高次脳機能障害、失語症のある患者の看護			講義				
食事摂取量低下の患者のアセスメント・看護支援			講義 ワーク				
6	運動器疾患をかかえる患者への看護 「変形性膝関節症患者の看護」		運動機能障害とは 運動機能障害による日常生活への影響 ADL IADL FIM		講義 GW		事前学習 (運動器)
運動機能障害のアセスメント・看護支援 MMT ROM から生活を考える			演習 ワーク				
9			脳神経・運動機能障害と看護実践		歩行障害の看護支援（杖・歩行器） 脳神経障害のある患者の看護支援		演習
10	排泄機能障害をかかえる患者の看護		前立腺肥大・脊髄損傷と排尿障害		講義		事前学習 (脊髄・腎)
11	「脊髄損傷患者の看護」		排尿障害のある患者のアセスメント		講義 ワーク		
12	感覚機能障害をかかえる患者の看護		視覚・聴覚障害による日常生活への影響		講義		事前学習 (眼・耳)
13	「視覚障害患者の看護」		視覚・聴覚障害のある患者の看護支援		演習		
14	受容過程と家族支援		コーンの障害受容、家族の心理		講義		
15	退院後の生活の再構築を考える		退院後の生活を支援するには 社会資源、家族への支援、多職種連携		講義		

テキスト	系統看護学講座 脳神経 腎・泌尿器 運動器 成人看護学総論 臨床看護総論 医学書院
自己学習 への指針	疾患から障害のある患者への看護支援について考えます。1 年次に学習した解剖生理学、病態生理学、看護技術を活用しますので事前に復習し臨みましょう
評価方法	提出物・小テスト・レポート・授業態度＜20%＞ 単位認定試験 ＜80%＞

分野	専門分野	科目	成人看護学方法Ⅲ (慢性期看護)	単位	1	時間数	30
学年	1 年	時期	後期	講師名	川村 美恵子		
科目概要	慢性期とは「病状が比較的安定しているが完治していない状態が続いている時期」である。近年の超高齢化社会や生活習慣の変化により、慢性期疾患患者は年々増加傾向となっており、看護の重要性も高まっている。慢性期疾患と共に生きていく対象とその家族への影響を理解し、個別性を捉えたセルフケアの視点で看護支援を学ぶ。						
科目目標	1. 慢性期における看護師の役割を理解できる 2. 慢性的な疾患にともなう生活上の影響を 4 側面（身体・精神・社会・霊的）から理解する 3. 病状安定に向けた生活習慣のセルフマネジメント援助について考えることができる。 4. 多職種との連携、家族を含めた継続的な看護を学ぶ						
回数	テーマ	学習内容			学習形態	備考	
1	慢性期の特徴	1. 慢性期における看護 1) 慢性期 2) 慢性期の看護のニーズ 3) 慢性期にある患者への看護援助			講義		
2	消化器疾患を抱えて生活 する患者の看護	1. 潰瘍性大腸炎・クローン病患者、家族 への看護 消化器疾患と身体への影響			講義		
3		1. 慢性肝炎・肝硬変患者、家族への看護 食道静脈瘤 肝性脳症 インターフェロ ン			講義		
4	内分泌機能障害を抱えて 生活する患者の看護	1. 内分泌機能障害の患者、家族への看護 バセドウ病 甲状腺機能低下 クッシング 病 巨人病 褐色細胞腫 アルドステロン症			講義		
5	免疫機能障害を抱えて 生活する患者の看護	1. 免疫機能障害・難病の患者、家族への 看護 膠原病 SLE AIDS			講義		
6	腎不全を抱えて 生活する患者の看護	1. 慢性腎臓病（CKD）、腎不全患者、家族 への看護 1) 疾患の特徴 2) 検査 3) 治療（食 事）			講義		
7	生活習慣病を抱える患者 の看護	1. 生活習慣がおよぼす影響① 1) 高血圧のしくみ、症状、 2) 治療 3) 高血圧と看護			講義		
8		1. 生活習慣がおよぼす影響② 1) 痛風 2) 脂質異常症 3) メタボリックシンドローム			講義		
9		1. 習慣がおよぼす影響③ 1) 糖尿病のしくみ、症状 2) 合併症			講義		
10		3) 検査、治療 4) 糖尿病と看護			講義		
11	人工透析患者の 看護	1. 人工透析とは 1) 血液透析導入時の看護			講義 動画		

12		(食事、日常生活指導 シャント管理) 2) 透析療法を受ける患者と家族の不安 3) 自己管理への看護	講義	
13	生活指導を必要とする	1. 生活指導とは 1) 生活指導計画書の作成(目的・目標・方法) 2) パンフレット作製	講義	
14	患者の看護		GW	
15	慢性期看護まとめ	パンフレット発表、振り返り	発表	
テキスト	系統看護学講座 臨床看護総論、成人看護学総論 医学書院 系統看護学講座 成人看護学(2)呼吸器、(5)消化器、(6)内分泌・代謝、 (8)腎・泌尿器 医学書院			
自己学習への指針	人体の構造と機能、疾病の成り立ちと回復の促進に該当する科目を復習し、病態と看護を関連づけられるように学びを深めてください			
評価方法	小テスト<20%> 単位認定試験 <80%>			

分野	専門分野	科目	成人看護学方法Ⅳ (がん看護)	単位	1	時間数	15
学年	2 年	時期	後期	講師名	若槻 陽子		
科目概要	がんとともに生きる過程における対象および家族の特徴を理解し、根拠に基づく看護援助方法について学ぶ。						
科目目標	1. がん患者と家族が抱える身体的・精神的・社会的・霊的苦痛を総合的に理解できる。 2. がん患者と家族が抱える問題を解決し、QOL を向上させるための看護介入方法を理解する。						
回数	テーマ	学習内容				学習形態	備考
1	がん看護	がん看護とは がんの特徴 がん患者の抱える苦痛 生活上の困難 身体面・心理面・社会面・スピリチュアルから考える 集学的治療				講義	
2		乳がんの看護 前立腺がんの看護 ボディイメージの変容				講義	
3		肝臓がんの看護 苦痛緩和 家族への支援				講義	
4		大腸がんの看護 ボディイメージの変容への支援 ストーマ管理				講義	
5		肺がんの看護 放射線療法				講義	
6	がん看護 看護過程	白血病の看護 薬物療法 造血幹細胞移植と看護				講義	
7		白血病 看護過程の展開 情報収集、情報の整理、アセスメント				個人ワーク	
8		関連図、問題リスト、看護計画立案				個人ワーク	
テキスト		系統看護学講座 成人看護学(1)成人看護各総論 医学書院 系統看護学講座 成人看護学(4)血液・造血器 医学書院 系統看護学講座 成人看護学(5)消化器 医学書院 系統看護学講座 成人看護学(8)腎・泌尿器 医学書院 系統看護学講座 成人看護学(9)女性生殖器 医学書院					
参考書		系統看護学講座別巻 がん看護学 医学書院 看護過程を使ったハンダーソン看護論の実践 ニューヴェルヒロカワ					
自己学習への 指針		人体と機能 各疾患について復習しておくこと ハンダーソンの14項目についての自己学習					
評価方法		単位認定試験、課題					

分野	専門分野	科目	老年看護学方法Ⅰ	単位	1	時間数	30
学年	1 年	時期	後期	講師名	大西知佳		
科目概要	高齢者の健康状態について身体的、心理・社会的な視点から情報を多角的に集め総合的に査定する知識と視点を学修する。加齢に伴う高齢者の健康状態の変化と、高齢者と家族の生活及び健康を支える看護について学ぶ。						
科目目標	1) 高齢者のヘルスアセスメントができる。 2) 加齢に伴う健康状態の変化を理解できる。 3) 高齢者と家族の生活及び健康を支える看護について理解できる。 4) その人らしい生活を支える看護の大切さが理解できる。						
回数	テーマ	学習内容			学習形態	備考	
1	老年期とは	1. 老いるとは 1) 身体的、心理的、社会的側面の変化 2) 老年期の発達課題 2. 身体の高齢変化とアセスメント 1) ヘルスアセスメント 2) 高齢者総合機能評価、障害高齢者の日常生活自立度判定基準			講義		
2 3	老年期における形態機能の変化	1. 老年期における形態機能の変化 1) 加齢そのものによる生理的变化 (1) 外皮系・感覚系 (2) 循環系・消化吸収系 (3) 内分泌系・泌尿生殖器			講義		
4 5	身体症状とアセスメント	1. 運動機能の変化と転倒 1) 形態機能の変化と運動系 2) 高齢者の姿勢・歩行の変化と転倒のリスク 2. その人に合った移乗動作			講義 演習		
6 7	身体症状とアセスメント	1. 高齢者と発熱、脱水 1) 水分摂取不足の要因は 2) 発熱、嘔吐に伴う脱水 3) 脱水にならないための看護			講義 個人ワーク		
8	日常生活を支える基本動作	1. 廃用症候群の予防と看護 1) 長時間同一姿勢による弊害 2) 活動性を高めるケア 3) 生活のリズムの調整 4) アクティビティーケアについて			講義		
9	日常生活を支える基本動作	1. 食事と看護ケア 1) 食生活の大切さと習慣や文化を尊重した援助 2) 高齢者の機能を活かす援助 3) 安全かつ快適な食事と栄養について 4) 嚥下とアセスメント 5) 食形態の工夫と食具の工夫 6) 口腔ケアの重要性、義歯のケア			講義		
10	日常生活を支える基本動作	1. コミュニケーションと看護ケア 1) 感覚機能の低下 2) コミュニケーション障害 3) 補聴器の種類と特徴 4) 失語症 5) 構音障害			講義		

11	日常生活を支える基本動作	1. 排泄の尊厳 1) 高齢者の尊厳を守る排泄ケア 2) 排泄行動 3) 排泄障害 4) 排泄障害の看護ケア	講義 個人ワーク	
12 13	日常生活を支える基本動作	1. 良質な睡眠を得るための工夫 1) 高齢者と生活リズム 2) 高齢者にみられる睡眠の障害 3) 生活リズムのアセスメント 4) 生活リズムを整える看護	講義 演習	
14 15	日常生活を支える基本動作	1. 清潔と看護ケア 1) 高齢者に生じやすい皮膚障害 ドライスキンと掻痒・褥瘡・白癬・疥癬 2) 清潔のニードの充足について 3) 清潔への意欲低下と社会参加 4) 入浴環境を考察 2. 褥瘡・スキンケアを持つ対象のアセスメントと看護ケア	講義 演習	
テキスト	医学書院 専門Ⅱ 老年看護学、 老年看護 病態・疾患			
参考書				
自己学習への指針	テキスト第4章、第5章を読んでください			
評価方法	単位認定試験（90％）、課題提出（10％）			

分野	専門分野	科目	老年看護学方法Ⅱ	単位	1	時間数	30
学年	2年	時期	後期	講師名	大西 知佳		
科目概要	高齢者が日常生活上に潜む危険を回避するための看護師の役割について学習する。 加齢に伴う変化が老年期の健康障害発生と経過に及ぼす影響を考え、老年期に多い疾病の病態と必要な看護を理解する。 対象の健康上の課題から、生活行動力が最大限に発揮できるための具体策を考える過程を学習する。						
科目目標	1. 高齢者の安全を守る重要性と具体策が分かる 2. 高齢者に多い疾患の病態生理と具体的な看護が分かる 3. 高齢者のその人らしい生き方の実現を目指し自律的な看護計画が立案できる						
回数	テーマ	学習内容			学習形態	備考	
1	生活に潜むリスクを避けるために必要な看護の視点とは何か。	1. 高齢者の医療安全 高齢者特有のリスク要因と対策 1) 転倒、転落（大腿骨骨折、脊椎骨折）			講義 個人ワーク		
2		2) 誤嚥/窒息 3) 熱傷			講義		
3 4	老年期の特徴に合わせた場面ごとの看護を考える。	1. 受療形態に応じた看護 1) 入院時の看護 2) 外来受診時の看護 3) 検査時の看護 4) 退院時の看護 （1）退院計画と退院支援 ①対象者と家族のニーズの理解 （2）退院指導 ①退院後の生活のイメージ化 ②退院時の問題の明確化 （3）地域医療連携の活用			講義 グループワーク		
5	高齢者に多い疾患と看護を理解する。	1. 認知症の看護 1) 定義 2) 認知症の原因と分類、評価方法 3) 中核症状と行動・心理症状（BPSD） 4) 認知症の予防、治療と看護 5) 認知症を持つ人の権利擁護			講義 グループワーク		
6							
7		1. パーキンソン病、パーキンソン症候群の看護			講義		
8		1. 高齢者に多い眼病変（白内障、緑内障、加齢黄斑変性症）の看護			講義		
9		1. 慢性関節リウマチの看護			講義		
10		1. COPD の看護			講義		
11		1. 災害時の看護 1) 高齢者特有のリスク 2) 災害サイクルに伴う看護支援			講義		
12	高齢者の自律的な生き方を実現する看護の考え方	高齢者の特徴と看護過程 生活行動モデルによる看護過程 目標志向型への転換			講義		
13		事例検討（脳梗塞） ①情報の整理			個人ワーク		
14 15		②看護計画 ③評価、修正 ④発表会 リフレクション			グループワーク 全体討議		

テキスト	系統看護学講座 老年看護学 医学書院 系統看護学講座 専門分野Ⅱ アレルギー 膠原病 感染症 系統看護学講座 老年看護 病態・疾患論
自己学習への 指針	高齢者の特徴を踏まえたリスク管理、疾患の症状に対する対応方法が考えられるよう個人ワークに取り組んでください。事前学習としてテキストを読んでおいてください。
評価方法	講義参加態度・課題提出・ワークの取り組み・単位認定試験を含む総合評価

分野	専門分野	科目	小児看護学概論	単位	1	時間数	15
学年	1 年	時期	後期	講師名	宮本 美樹		
科目概要	近年の我が国では、本格的な少子高齢化に伴い、こどもとその家族を取り巻く環境は大きく変化している。こどもとその家族が安心して地域社会で生活ができるように、こどもへの直接的支援だけではなく、家族も含めた看護が求められている。 小児看護学概論では、こどもとその家族を理解するために欠かせない知識として成長・発達、家族アセスメント、こどもを取り巻く社会や法律を理解するための学修を行う。						
科目目標	1. 小児看護の対象者が理解できる。 2. 小児各期の成長・発達の特徴が理解できる。 3. こどもの栄養について理解できる。 4. 現代家族の特徴と家族の発達段階が理解できる。 5. こどもと家族を取り巻く社会が理解できる。						
回数	テーマ	学習内容				学習形態	備考
1	1. 小児看護の特徴と理念	1) 小児看護のめざすところ (1) 小児看護の対象者 (2) 小児看護の目標と役割 2) 小児と家族の諸統計 3) 小児看護の変遷 4) 小児看護における倫理 5) 小児看護の課題				講義	
2	2. こどもの成長・発達	1) 成長・発達とは 2) 成長・発達の進み方（一般原則） 3) 成長・発達に影響する因子 4) 成長の評価 5) 発達の評価				講義	
3	3. 新生児・乳児	1) 新生児 (1) 形態的特徴 (2) 身体生理の特徴 (3) 各機能の発達 (4) 新生児の異常および看護 2) 乳児 (1) 形態的特徴 (2) 身体生理の特徴 (3) 感覚機能 (4) 運動機能 (5) 知的機能 (6) コミュニケーション機能 (7) 情緒・社会的機能 (8) 乳児の養育および看護				講義	
4・5	4. 幼児・学童	1) 幼児 (1) 形態的特徴 (2) 身体生理の特徴 (3) 感覚機能 (3) 運動機能 (4) 知的機能 (5) コミュニケーション機能 (6) 情緒・社会的機能 (7) 幼児の養育および看護 2) 学童 (1) 形態的特徴 (2) 身体生理の特徴 (3) 感覚・運動機能 (4) 知的・情緒機能 (5) 社会的機能 (6) 不適応行動・症状 (7) 学童を取り巻く諸環境 (8) 学童の養育および看護				講義	

6	5. 思春期の こども	1) 思春期 (1) 形態的特徴 (2) 身体生理の特徴 (3) 知的・情緒(心理)的・社会的機能 (4) 生活の特徴 (5) 心理・社会的適応に関する問題 (6) 飲酒・喫煙 (7) 性に関する健康問題 (8) 反社会的・逸脱行動 (9) 事故・外傷 (10) 思春期の看護	講義	
7	6. 家族の特徴 とアセスメント	1) こどもにとっての家族とは (1) 家族とは (2) 現代家族の特徴 2) 家族アセスメント (1) こどもをもつ家族のアセスメントの留意点 (2) こどもをもつ家族のアセスメントの目的 (3) 家族アセスメントの家族にとっての意味	講義	
8	7. こどもと 家族を取り巻く 社会	1) 児童福祉 (1) 児童福祉の変遷 (2) 虐待防止 (3) こどもの貧困への対策 2) 母子保健 (1) 母子保健の歴史 (2) 現在の母子保健 3) 医療費の支援 (1) 予防接種の歴史 (2) 現在の予防接種 (3) 副反応と健康被害救済制度 4) 学校保健 (1) 学校保健の歴史 (2) 健康診断 (3) 健康相談 (4) 感染予防 (5) 学校保健活動の推進 5) 食育 6) 特別支援教育 7) 臓器移植	講義	
テキスト		系統看護学講座 専門分野 小児看護学概論・小児臨床看護総論 小児看護学1 医学書院 その他、参考資料の配布あり		
参考書		ナーシンググラフィカ 小児の発達と看護 小児看護学① メディカ出版 ナーシンググラフィカ 小児看護技術 小児看護学② メディカ出版 松岡真里：小児看護と看護倫理。へるす出版		
自己学習への 指針		テキストの該当する箇所を読み、予習して講義に出席すること。		
評価方法		単位認定試験・課題提出・授業態度・出席状況		

分野	専門分野	科目	小児看護学方法Ⅰ	単位	1	時間数	30
学年	2 年	時期	前期	講師名	宮本 美樹		
科目概要	小児看護学方法Ⅰでは、小児看護学概論で学修した「成長・発達」や「こどもと家族」、「疾病や入院がこどもと家族に与える影響」などの知識を踏まえ、疾患や障がいを持つこどもとその家族に対する具体的な看護内容・方法を学修する。 小児に多い特有の疾患の病態、診断、治療、予後、看護について系統別に学修し、臨地実習に活用できるようにする。 また、こどもに多い事故と処置についても学修する。						
科目目標	1. こどもの生理機能に影響をおよぼす要因を理解し、異常や障がいがおこるメカニズムについて理解できる。 2. 主要疾患の病因、病態、検査、治療、看護が理解できる。 3. 特有の疾患や障がいを持つこどもと家族への看護が理解できる。 4. こどもに多い事故に対する予防法が理解できる。						
回数	テーマ	学習内容			学習形態	備考	
1	染色体異常・先天異常のこどもの看護	1. 常染色体異常（ダウン症候群、18トリソミー、13トリソミー）のこどもと家族の看護 2. 性染色体異常（ターナー症候群、クラインフェルター症候群）のこどもと家族の看護 ～先天性疾患を持つこどもと両親への援助～			講義 GW		
2	代謝性疾患・内分泌疾患のこどもの看護	1. 代謝性疾患（1型糖尿病）のこどもと家族の看護 2. 内分泌疾患（成長ホルモン分泌不全性低身長症、甲状腺機能低下症・亢進症）のこどもと家族の看護 ～小学校入学を前にした1型糖尿病のAくんが安全な学校生活を送るために必要な援助について～			講義 GW		
3	アレルギー疾患のこどもの看護	1. 食物アレルギーのこどもと家族の看護 2. 気管支喘息のこどもと家族の看護 ～気管支喘息患児への退院指導計画～			講義 GW		
4	感染症をもつこどもの看護	1. ウイルス感染症（麻疹、風疹、水痘、伝染性紅斑、流行性耳下腺炎、インフルエンザ）のこどもと家族の看護 2. 細菌感染症（百日咳）のこどもと家族の看護 ～麻疹で入院したAちゃんの看護～			講義 GW		
5	呼吸器疾患をもつこどもの看護	1. 上気道炎の疾患（かぜ症候群、クループ症候群）のこどもと家族の看護 2. 気管支・肺・胸膜疾患（肺炎）のこどもと家族の看護 ～かぜ症候群のこどもの家庭療養について～			講義 GW		
6	循環器疾患をもつこどもの看護	1. 先天性心疾患（先天性心室中隔欠損症、ファロー四徴症）のこどもと家族の看護 2. 後天性心疾患（川崎病）のこどもと家族の看護 ～ファロー四徴症のAちゃんの看護～			講義 GW		
7	消化器疾患をもつこどもの看護	1. 胃・十二指腸疾患（肥厚性幽門狭窄症）のこどもと家族の看護 2. 小腸・大腸疾患（ヒルシュスプルング病、鎖肛、腸重積症）のこどもと家族の看護 3. 肝臓・胆道疾患（胆道閉鎖症）のこどもと家族の看護 ～腹痛・下痢・嘔吐症状を示す2歳児の看護～			講義 GW		

8	血液・造血器疾患をもつこどもの看護	1. 貧血（再生不良性貧血）のこどもと家族の看護 2. 出血性疾患（血友病、血小板減少性紫斑病）のこどもと家族の看護 ～血友病のこどもの退院指導について～	講義 GW	
9	悪性新生物をもつこどもの看護	1. 急性リンパ性白血病のこどもと家族の看護 2. 脳腫瘍のこどもと家族の看護 ～白血病と診断され不安をもつ母親へのかかわりについて～	講義 GW	
10	腎疾患をもつこどもの看護	1. ネフローゼ症候群のこどもと家族の看護 2. 溶連菌感染症後急性糸球体腎炎のこどもと家族の看護 ～ネフローゼ症候群で退院となる10歳女児への退院指導～	講義 GW	
11	神経疾患をもつこどもの看護	1. てんかんのこどもと家族の看護 2. 筋ジストロフィーのこどもと家族の看護 ～筋ジストロフィーで歩行不能になったAくんのかかわりについて～	講義 GW	
12	運動器疾患をもつこどもの看護	1. 発育性股関節形成不全（先天性股関節脱臼）のこどもと家族の看護 2. 骨折のこどもと家族の看護 ～牽引中の女児4歳への遊びについて～	講義 GW	
13	皮膚疾患・眼疾患・耳鼻咽喉疾患をもつこどもの看護	1. 皮膚疾患（母斑、アトピー性皮膚炎）のこどもと家族の看護 2. 小児眼科診療の背景と特徴 3. 耳鼻咽喉疾患（滲出性中耳炎）のこどもと家族の看護 ～扁桃摘出術を受ける10歳の男児への術前オリエンテーション～	講義 GW	
14	精神疾患をもつこどもの看護	1. 発達障害のこどもと家族の看護 ～ADHDのAくん1年生の学校生活への支援について～	講義 GW	
15	事故・外傷のこどもの看護	1. こどもに多い事故・外傷に対する看護 1) 頭部外傷、誤嚥・誤飲、溺水、熱傷、熱中症	講義	
テキスト	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 小児臨床看護各論 医学書院 その他参考資料の配布			
参考書	ナーシンググラフィカ 小児の疾患と看護 メディカ出版 病気がみえる ^⑬ 小児科 メディックメディア			
自己学習への指針	該当する部分を読み、予習をして授業に臨むこと。 1年次に学修した小児看護学概論を活用するため、資料などを持参してください。 授業は、事例をもとにグループワーク、ディスカッション行う。 各自積極的に参加するように。			
評価方法	単位認定試験（90%）、課題提出・出席状況・授業態度（10%）			

分野	専門分野	科目	小児看護学方法Ⅱ	単位	1	時間数	30
学年	2 年	時期	後期	講師名	宮本 美樹		
科目概要	・小児看護学概論・小児看護学方法Ⅰで学修したこどもの成長・発達段階、健康の段階、主な症状や特殊な状態の知識を踏まえながら、健康を障害されたこどもとその家族に対する理解を深めるための学修を行う。 ・さまざまな状況や疾患の経過に伴い、こどもに合わせた看護は少しずつ変化している。それぞれに対応した看護を提供するための第一段階として、こどものアセスメント方法を学修する。その知識を使用して、さまざまな症状を示すこどもに対する看護について考えていく。 ・検査や処置、障がいがあるこどもへの看護、近年問題となっている虐待についての基礎的な知識を学修する。						
科目目標	1. 病気や障がいを持つこどもと家族へのかかわり方が理解できる。 2. こどもの状況（環境）に特徴づけられる看護が理解できる。 3. こどもにおける疾病の経過と看護が理解できる。 4. こどものアセスメント方法が理解できる。 5. さまざまな症状を示すこどもの看護が理解できる。 6. 検査や処置を受けるこどもへの看護が理解できる。 7. 障がいのあるこどもと家族への看護が理解できる。 8. こどもの虐待と看護が理解できる。						
回数	テーマ	学習内容			学習形態	備考	
1	1. 病気・障がいを持つこどもと家族の看護	1) 病気・障がいがあるこどもと家族に与える影響 (1) 病気・障がいに対するこどもの反応 (2) こどもの病気・障がいに対するこどもと家族の反応 2) こどもの健康問題と看護 ～病気や障がいがある子どもと家族に与える影響～			講義 GW・発表		
2	2. こどもの状況（環境）に特徴づけられる看護	1) こどもの状況に特徴づけられる看護 (1) 入院中のこどもと家族の看護 ～入院中もそのこらしく、笑顔で過ごすために～ (2) 外来におけるこどもと家族の看護			講義 GW・発表		
3		(3) 災害時のこどもと家族の看護 ～被災したこどもと家族の看護～			講義 GW・発表		
4	3. こどもにおける疾病の経過と看護	1) 疾病の経過によるこどもと家族の看護 (1) 慢性期にあるこどもと家族の看護 ① こどもの慢性期の特徴 ② こどもと家族の看護 ～慢性期にあるこどもと家族の看護～			講義 GW・発表		
5		(2) 急性期にあるこどもと家族の看護 ① こどもの急性期の特徴 ② こどもと家族の看護 ～急激な症状を示すこどもの看護～			講義 GW・発表		
6・7	4. こどものアセスメント	1) こどものアセスメント (1) アセスメントに必要な技術 (2) 身体的アセスメント ～言語でのコミュニケーションが難しい乳児のバイタルサイン～			講義		
8	5. 症状を示すこどもの看護	1) 症状を示すこどもの看護 (1) 不機嫌・啼泣について (2) 痛みを伴うこどもの看護			講義		
9		(3) 呼吸困難：原因・こどもの看護 (4) チアノーゼ：原因・こどもの看護 (5) ショック：原因・こどもの看護 (6) 意識障害：分類・原因・こどもの看護 (7) 痙攣：原因・種類・こどもの看護			講義		

10	5. 症状を示す こどもの看護	(8)発熱：原因・症状・こどもの看護 (9)嘔吐：原因・こどもの看護 (10)下痢：分類・疾患・こどもの看護 (11)便秘：原因・こどもの看護 (12)脱水：原因・症状・こどもの看護	講義	
11		(13)浮腫：原因・分類・こどもの看護 (14)出血：止血機構・止血機構の異常と出血症状 の特徴・こどもの看護 (15)貧血：原因・こどもの看護 (16)発疹：原因・こどもの看護 (17)黄疸：原因・こどもの看護	講義	
12	6. 検査・処置 を受けるこども の看護	1) 検査・処置を受けるこどもの看護 (1)検査・処置総論 ①こどもにとっての検査・処置体験 ②看護の実際 (2)検査・処置各論 ①抑制 ②検体採取； i. 採尿 ii. 採便 iii. 採血 iv. 骨髓穿刺 v. 腰椎穿刺 ③電法； i. 温電法 ii. 冷電法 ④清潔； i. 沐浴 ii. 殿部浴 iii. 歯磨き ⑤経管栄養 ⑥排泄； i. おむつ交換 ii. 床上排泄 iii. 綿棒刺激 iv. 浣腸 v. トイレトレーニング	講義	
13		⑦呼吸症状の緩和 i. 鼻腔・口腔吸引、気管内吸引 ii. 酸素療法 iii. 吸入療法	講義	
14	7. 障がいのあるこどもと 家族の看護	1) 障がいのあるこどもと家族の看護 (1)障がいのとらえ方 (2)障がいのあるこどもと家族の特徴 (3)障がいのあるこどもと家族への支援 ～障がいのあるこどもと家族へのチームアプローチを 考える～	講義 GW、発表	
15	8. こどもの 虐待と看護	1) 虐待を受けるこどもと家族への支援 (1)こどもの虐待への対策の経緯と現状 (2)こどもの虐待とは (3)リスク要因と発生予防・早期発見 (4)こどもの虐待に特徴的にみられる状況 (5)求められるケア ～育児不安による虐待が疑われるこどもと家族の看護～	講義 GW、発表	
テキスト		系統看護学講座 専門Ⅱ 小児看護学概論 小児臨床看護総論 小児看護学① 医学書院		
参考図書		ナースングラフィカ 小児の発達と看護 小児看護学① メディカ出版 ナースングラフィカ 小児看護技術 小児看護学② メディカ出版 小児看護ビジュアルナースング 学研 小児看護技術 第3版 医学書院 写真でわかる小児看護技術 A インターメディカ		
自己学習への 指針		テキストの該当する部分を読み、予習をして授業に臨むこと。 グループワークとなっている部分は、ディスカッション学修が含まれるため、積極的に参加すること。		
評価方法		単位認定試験（90%）、課題提出・授業態度・出席状況（10%）		

分野	専門分野	科目	母性看護学概論	単位	1	時間数	15
学年	1 年	時期	後期	講師名	小野寺 由美子		
科目概要	母性看護学では、母性看護の基盤となる概念、母性を取りまく社会環境、性と生殖に関する健康問題およびその看護の役割について学ぶ。同時に母性の健康は、次世代の健康に受け継がれ、また、さまざまな看護領域とも関連するため、リプロダクティブ・ヘルス／ライツの課題において各自の考えを深めることが求められる。						
科目目標	1. 母性看護の対象と母性を取り巻く社会の動向を理解する。 2. 性機能の発達と退化のメカニズムを理解する。 3. 女性のライフサイクル各期における健康上の課題と看護ニーズを理解する。 4. 母性看護の役割と課題を理解する。						
回数	テーマ	学習内容				学習形態	備考
1	1. 母性看護の基盤となる概念	1) 母性とは ① 親になることと母性 ② 母性の身体的特性 ③ 母性の心理・社会的特性 ④ 母性看護における母性 2) セクシュアリティ（人間の性） ① セクシュアリティとは ② セクシュアリティの発達と課題 3) リプロダクティブヘルス／ライツ ① リプロダクティブヘルス／ライツとは ② 女性とリプロダクティブヘルス／ライツの課題 ③ 女性のライフサイクルにおけるリプロダクティブヘルス／ライツ				講義	
2		4) 母性看護のあり方 ① 母性看護の理念 ② 母性看護の課題と展望 5) 母性看護における倫理 ① 生命倫理と看護倫理 看護における倫理的意思決定				講義	
3	2. 母性看護の対象を取り巻く社会の変遷と現状	1) 母性看護の歴史的変遷と現状 ① 母性看護の変遷 母性看護に関する組織と法律 2) 母性看護の提供システム ① 母性看護に関わる機関 ② 母性看護にかかわる職種				講義	
4	3. 母性看護の対象理解	1) 女性のライフサイクルにおける形態・機能の変化 ① 生殖器の形態・機能 ② 妊娠と胎児の性分化 2) 女性のライフサイクルと家族 ① 現代女性のライフサイクル ② 家族の発達段階と家族看護 ③ 女性のライフサイクルと生涯発達 3) 母性の発達・成熟・継承				講義	

5	4. 女性のライフステージ各期における看護	1) ライフサイクルにおける女性の健康と看護の必要性 ① 女性のライフサイクルと健康 ② ライフステージ各期の健康問題と看護 2) 思春期の健康と看護 ① 思春期女性の特徴 ② 健康問題と看護 ③ 思春期女性への看護の視点	講義	
6		3) 性成熟期の健康と看護 ① 性成熟期女性の特徴 ② 健康問題と看護 ③ 性成熟期女性への看護の視点	講義	
7		4) 更年期の健康と看護 ① 更年期女性の特徴 ② 健康問題と看護 ③ 更年期女性への看護の視点	講義	
8	5. リプロダクティブヘルスケア	1) 家族計画 2) 性感染症とその予防 3) 人工妊娠中絶と看護 4) 性暴力を受けた女性に対する看護 5) 国際化社会と看護	講義	
テキスト		系統看護学講座 母性看護学（1） 医学書院		
参考書		系統看護学講座 専門分野Ⅱ 母性看護学② 医学書院 系統看護学講座 専門基礎分野 人体の構造と機能 解剖生理学 医学書院		
自己学習への指針		性機能の発達と退化のメカニズム、ライフサイクル各期について復習しておいてください。		
評価方法		単位認定試験		

分野	専門分野	科目	母性看護学方法Ⅰ	単位	1	時間数	30
学年	2年	時期	前期	講師名	小野寺 由美子		
科目概要	妊娠期・分娩期・産褥期・新生児期について学ぶ。						
科目目標	妊娠・分娩・産褥及び新生児が自然で安全に経過するための看護を理解する。						
回数	テーマ	学習内容			学習形態	備考	
1	妊娠期における看護	妊娠の経過 妊娠の診断と経過 妊婦健康診査 妊娠中の検査・診察			講義		
2		妊娠の診断 胎児の発育と健康状態のアセスメント			講義		
3		妊娠による解剖学的変化 妊娠期における身体的特性 母体の生理的・心理的・社会的変化			講義		
4		妊娠中の検査 生理的变化に伴うマイナートラブルの アセスメント 妊婦の診察			講義		
5		妊婦の日常生活のアセスメント マイナートラブルの対処法			講義		
6		個別指導・MC 妊婦の健康相談・教育の実際 (生活指導・食事・衣服など) 妊娠末期の保健指導 出産準備教育			講義 グループワーク		
7		発表			発表		
8	分娩期の看護	分娩期の看護 正常分娩の経過 分娩の三要素など			講義		
9		正常分娩の経過 胎児心拍数陣痛図・判読 分娩の三要素など			講義		
10		分娩第Ⅰ期から第Ⅳ期の看護 安全のための援助			講義		
11		安楽のための援助 産痛緩和方法 家族への看護 胎児心拍数陣痛図（CTG）の判読			講義 演習		
12	産褥期の看護	産褥経過 産褥期の身体的変化とアセスメント（退行性 変化・進行性変化）			講義		
13		マタニティブルー 産褥期の心理・社会的変化 退行性変化・進行性変化 退院後の生活への支援			講義 課題提出		
14	新生児の看護	新生児の定義 新生児の評価・診察（原始反射） 新生児の健康状態のアセスメント			講義		
15		新生児の日々のアセスメントと看護 育児・直接授乳の支援			講義 課題提出		
テキスト		系統看護学講座 母性看護学各論 医学書院					
参考書		—					
自己学習への指針		課題については母性看護学実習で使えるように技術学習ノート、指導計画案を作成する。					
評価方法		単位認定試験 課題提出					

分野	専門分野	科目	母性看護学方法Ⅱ	単位	1	時間数	30
学年	2 年	時期	後期	講師名	小野寺 由美子		
科目概要	妊娠期・分娩期・産褥期・新生児期の異常について学ぶ。						
科目目標	1. 遺伝及び不妊について理解する。 2. 生命倫理について考察する。 3. 妊娠期・分娩期・新生児期・産褥期の異常と看護について理解する。						
回数	テーマ	学習内容			学習形態	備考	
1	遺伝及び不妊について	1. 子どもを産み育てるとは 2. 遺伝相談			講義		
2		3. 出生前、着床前診断 4. 不妊治療と看護 5. 生殖医療			講義		
3	妊娠の異常と看護	6. 妊娠の異常と看護 1) ハイリスク妊娠			講義		
4		2) 妊娠期の感染症 3) 妊娠疾患			講義		
5		4) 多胎妊娠 5) 異所性妊娠			講義		
6		6) ハイリスク妊婦の看護					
7	分娩の異常と看護	7. 分娩の異常と看護 1) 産道・娩出力の異常 2) 胎児・付属物の異常			講義		
9		4) 分娩時の損傷・分娩時異常出血 5) 胎児機能不全			講義		
10		6) 産科処置と産科手術			講義		
11		7) 異常のある産婦の看護 8) 異常分娩時の産婦の看護			講義		
12	新生児の異常と看護	8. 新生児の異常と看護 1) 新生児仮死 2) 分娩外傷			講義		
13		3) 低出生体重児 4) 高ビリルビン血症 5) 新生児、乳児ビタミンK 欠乏性出血症			講義		
14	産褥の異常と看護	9. 産褥の異常と看護 1) 子宮復古不全 2) 産褥期の発熱			講義		
		3) 産褥血栓症 4) 異常のある褥婦の看護			講義		
15		10. メンタルヘルスの問題を抱える母親の支援			講義		
テキスト		系統看護学講座 母性看護学各論 医学書院					
参考書							
自己学習への指針		講義内容に関連した正常な妊娠・分娩・産褥及び新生児について必ず復習をして授業に臨むこと。					
評価方法		単位認定試験					

分野	専門分野	科目	母性看護学方法Ⅲ	単位	1	時間数	15
学年	2 年	時期	後期	講師名	小野寺 由美子		
科目概要	看護過程の展開						
科目目標	母性各期及び新生児期の健康問題を理解し、対象及び家族に対して援助を実施するために必要な看護過程を展開する能力を養う。						
回数	テーマ	学習内容				学習形態	備考
1	ウェルネスについて	ウェルネス看護診断の考え方 妊娠期のアセスメント				講義 演習	
2	妊婦の事例展開	妊娠期のアセスメント ・看護診断 ・看護介入				講義 演習	
3	産婦の事例展開	分娩期のアセスメント ・看護診断 ・看護介入				講義 演習	
4							
5	産婦の事例展開	産褥期のアセスメント ・看護診断 ・看護介入				講義 演習	
6							
7	新生児の事例展開	新生児期のアセスメント ・看護診断 ・看護介入				演習 演習	
8							
テキスト		系統看護学講座 母性看護学各論 医学書院					
参考書							
自己学習への指針		母性看護学方法Ⅰ・Ⅱで履修した内容を活用し、各期のアセスメント方法を習得することで看護過程の展開を行います。既習内容を再確認し知識の定着をして授業に臨んでください。また、母性看護学方法Ⅰ・Ⅱの授業プリント等を整理し活用できるよう準備をしておきましょう。					
評価方法		単位認定試験、看護過程の展開レポート					

分野	専門分野	科目	精神看護学方法Ⅰ	単位	1	時間数	30
学年	2 年	時期	前期	講師名	高橋はる		
科目概要	精神疾患は、5 大疾患に上げられ患者数は増加し、長期入院など問題等が山積している。 そのため、精神障害を持つ人、およびその家族への理解を深め、支援していくことが求められる。 症状により生じる生活上の困難を理解し、症状がありながらも生活を維持するためにどのような支援が必要かを学ぶ。その支援のために活用できる、看護理論・精神療法・リハビリテーションなどの援助技術を学ぶ。 また、対象との関係をアセスメントし、自らのコミュニケーションの傾向を理解する技術を学ぶ。						
科目目標	1. 精神障害が生活に及ぼす影響について説明できる 2. 精神看護に活用できる対人関係理論・セルフケア理論について説明できる 3. プロセスレコードの活用の方法が理解できる。 4. 精神療法、精神科リハビリテーションについて学び、回復を支える援助の方法を説明できる。 5. 精神障害者・家族への生活支援の方法が説明できる。 6. リエゾン精神看護について説明できる。						
回数	テーマ	学習内容			学習形態	備考	
1	精神科における看護の役割	1. 入院治療の目的と意義 2. 精神障害を持つ人の病の体験 3. さまざまな精神症状			講義		
2	精神障害と看護	1. 精神障害と看護①			講義		
3	精神障害と看護	1. 精神障害と看護②			講義		
4	発達障害と看護	1. 一時障害と二次障害 2. 自閉スペクトラム障害と看護			講義 動画視聴		
5	精神科におけるコミュニケーション	1. 患者－看護師関係で起こること 2. 転移・逆転移			講義		
6	関係をアセスメントする	1. プロセスレコードの書き方 2. プロセスレコードを用いたアセスメント			講義		
7	関係をアセスメントする	3. プロセスレコードの活用・共有			講義・グループワーク		
8	看護理論	1. 精神領域で用いられる看護理論 人間関係論・セルフケア理論			講義		
9	回復を支える治療的アプローチ	1. 精神療法			講義 演習		
10	回復を支える治療的アプローチ	1. 認知行動療法の実際			講義		
11	回復を支える治療的アプローチ	1. レクリエーション療法 2. リラクゼーション			講義		
12	地域生活を支える社会資源	1. 家族と精神の健康 2. 社会生活を支える考え方、リカバリーという視点			講義 DVD		
13	精神科リハビリテーション	1. 社会生活技能訓練（SST）の理論的根拠 2. WRAP			講義		
14	精神科リハビリテーション	1. 心理教育			講義		
15	看護師のメンタルヘルス	1. 看護師の不安と防衛 2. リエゾナーズの活動			講義		
テキスト		系統看護学講座 精神看護の基礎 系統看護学講座 精神看護の展開					

参考書	
自己学習への指針	各ライフサイクルにおける精神保健の内容を復習しておいてください 基礎看護学で学んだプロセスレコードの資料を持参してください
評価方法	単位認定試験（70％）出席状況 提出物 授業態度 （30％）

分野	専門分野	科目	精神看護学方法Ⅱ	単位	1	時間数	30
学年	2 年	時期	後期	講師名	金丸美穂・高橋はる		
科目概要	統合失調症および感情障害の看護を展開する上で必要な知識・視点・アセスメント方法の理解を深める。また、対象の治療・安全への対策としての環境調整と基本的技術を理解するとともに、倫理的な視点を深める。						
科目目標	1. 統合失調症を持つ対象の看護が理解できる。 2. 対象の安全と人権を守るために必要な援助を法的根拠に基づいて説明できる。 3. 災害がもたらす身体的・精神的・社会的影響について学び、その支援方法について理解できる。 4. ストレングスモデルを用いて支援する方法を理解できる。 5. 精神障害を持つ対象のアセスメントの視点を理解できる。 4. 精神障害の特徴を理解し、精神障害を持つ対象への看護を考えることができる。						
回数	テーマ	学習内容			学習形態	備考	
1	治療と環境	1. 精神科病院および病棟の特徴 2. 治療的環境とは			講義	外部講師	
2	統合失調症と看護	1. 統合失調症の基礎知識 2. 入院治療の目的と意味			講義	外部講師	
3	統合失調症と看護	1. 修正型電気けいれん療法の看護 2. 日常生活における身体ケア			講義	外部講師	
4	安全を守る	1. 行動制限と看護 2. 緊急事態に対処する：自殺・暴力・無断離院			講義	外部講師	
5	リスクマネジメント	1. リスクマネジメントの考え方と方法 2. 災害時のメンタルヘルスと看護			講義	外部講師	
6	精神科領域における倫理的課題	1. 精神科領域における倫理的課題を考える			講義		
7	アセスメントに用いられる主な理論	1. 精神科領域でのアセスメントの内容と方法 2. ストレングスモデルの概要			講義		
8	アセスメントに用いられる主な理論	1. ストレングスモデルの活用			講義 グループワーク		
9	事例で学ぶ精神看護の実際	事例の紹介と経過 疾患の理解			個人ワーク		
10	事例で学ぶ精神看護の実際	情報の整理・アセスメント			個人ワーク		
11	事例で学ぶ精神看護の実際	関連図の作成と全体像の把握			個人ワーク		
12	事例で学ぶ精神看護の実際	看護問題の確定と優先順位の決定			個人ワーク		
13	事例で学ぶ精神看護の実際	看護目標の設定 看護問題に基づき、看護計画立案			個人ワーク		
14	事例で学ぶ精神看護の実際	学びの共有 グループで患者の看護計画に対するカンファレンス			グループワーク		
15	事例で学ぶ精神看護の実際	まとめ カンファレンスを基に、アセスメントおよび看護計画の修正			個人ワーク		
テキスト		系統看護学講座 精神看護の基礎 系統看護学講座 精神看護の展開					
参考書							
自己学習への指針		病態生理学Ⅶの内容を復習し、主な精神疾患の病態と治療についてまとめておいてください					
評価方法		単位認定試験(50%) 出席状況 提出物 授業態度 (50%)					

分野	専門分野	科目	地域連携と継続看護	単位	1	時間数	30
学年	3 年	時期	後期	講師名	小沢香代子・大木和代・専任教員		
科目概要	継続看護には、「患者様が住み慣れた地域で生活の質を保ち、安心して暮らせるように、入院から退院後の生活や外来通院そして地域を見据えた継続的な療養支援をして行く」という意味がある。 地域で暮らすひとりの人を支えるためには、異なった専門的背景をもつ専門職が、「質の高いケアを提供する」ために、「共有した目標に向けて共に働くこと」を指す。介護支援専門員（ケアマネジャー）、医師、看護職、リハビリテーション専門職、医療ソーシャルワーカー、地域包括支援センターや社会福祉機関の職員、介護保険施設の職員に加えて、民生委員、NPO 法人の職員、ボランティア団体のメンバー、自治会などの地域支援者などとの連携が必要である。 ここでは、継続した療養の実現のために、他職種とどのような連携が必要なのか、その中で看護職としての専門性を発揮するためには、どのような行動が必要なのかを学ぶ						
科目目標	1.対象者が「生活する場」における他職種との連携の必要性が理解できる 2.他職種の特徴を知り、どのように連携していけばよいかを理解できる 3.チーム医療の中で、看護職としてどのような行動が必要か理解できる 4.医療・看護・介護の継続とは何か、必要性和社会的背景の理解ができる。 5.様々な事例を通して具体的な看護の提供方法が理解できる。						
回数	テーマ	学習内容			学習形態	備考	
1	継続看護とは	1.継続看護とは何か 2.継続看護の必要性 3.社会背景から見た継続看護			講義		
2	継続看護における看護師の役割	1.継続看護における看護師の役割と関わり 2.切れ目のない看護を提供するために 3.在宅を見据えた支援と指導 4.病棟・外来との連携			講義		
3・4	他職種の役割の理解と連携	1.看護の継続性と連携 2.他職種チームの連携と継続的な関わり 薬剤・検査・栄養・リハビリテーションその他の医療機関内における他職種の役割の理解 住宅改修事業・福祉用具レンタル 販売事業・社会福祉事業等地域生活に関係する職種の役割の理解			講義		
5	医療機関・施設との連携	1.患者、家族の意思決定と調整 2.退院支援部門・MSW との連携 3.地域の医療機関・施設との連携 4.訪問看護師との連携			講義		
6	地域連携における看護の役割	1.地域における他職種連携 2.チーム医療における看護師の役割と必要性 3.情報の共有とサマリー・地域連携クリニカルパス			講義		
7	地域包括ケアシステムにおける他職種連携	1.行政との連携 ・行政機関の役割 児童相談所 子育て世代包括支援センター 保健所 2.地域包括支援センターとの連携 ・地域包括支援センターの役割 ・成年後見人制度 ・福祉サービス利用援助事業			講義		
8		3.居宅介護支援事業所との連携 ・居宅介護支援事業所の役割 4.介護サービス事業所との連携 ・住民との連携 ・民生委員、認知症サポーターとの連携 ・自治会との連携			講義		

9	看護が担うケア マネージメント の概念	1.サービスとケアの継続性 2.残存機能の維持、向上に向けた連携 3.多様化したニーズへの対応 4.意思決定の支援	講義	
10	社会資源の理解 と活用	1.フォーマルサービスとインフォーマルサービス 2.ホームホスピス・ファミリーサポートハウス	講義・GW	
11	育児不安を抱える 母親への継続 看護(母性)	1.育児不安を抱えるAさんへの継続看護 ・育児不安の原因と要因 ・家族関係の把握と通院への支援	講義・GW	
12	認知症のある療 養者への継続看 護(老年)	1.認知症のあるBさんへの継続看護 ・認知症の程度とBさんの行動の把握 ・家族への支援 ・地域の人々との連携	講義・GW	
13	小児の療養者へ の継続看護(小 児)	1.人工呼吸器をつけたまま退院するCちゃんへの継続看護 ・家族への医療的処置の指導と外来との情報共有 ・医療機器の手配と社会資源の活用(MSW、退院支援) ・その他、Cちゃんが在宅で生活するために必要な連携	講義・GW	
14	精神疾患を持つ 療養者への継続 看護(精神)	1.精神疾患を持ちながら地域で生活するDさんへの継続看護 ・精神科デイケアの活用と社会性の構築	講義・GW	
15	難病を持つ療養 者への継続看護 (在宅)	1.ALSで自宅療養するEさんへの継続看護 ・進行性変化をきたす療養者の理解 ・在宅療養継続のための福祉制度と社会サービスの活用 と本人と家族への指導(災害時対応を含む)。	講義・GW	
テキスト		系統看護学講座 専門分野Ⅰ 臨床看護総論 系統看護学講座 統合分野 在宅看護論		
参考書		系統看護学講座 専門分野Ⅱ 老年看護学 老年看護病態疾患論 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 小児概論・小児臨床総論 小児臨床各論 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 母性看護学総論 母性看護学各論 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 精神看護の基礎 精神看護の展開		
自己学習への 指針		・テキストの関連部分の事前・事後の読み込み ・日頃から「教育学」に関する事象・ニュースなどに関心を持つ		
評価方法		単位認定試験(60%)と授業の取組態度[課題やリアクションペーパーなど](40%)の総合 評価		

分野	専門分野	科目	薬物療法と看護	単位	1	時間数	15
学年	2年	時期	前期	講師名	宮本 美樹		
科目概要	薬物療法における看護師の役割を理解し、的確な薬物療法を行うために必要な基本的な考え方（薬理作用・有害事象・与薬時の注意事項）と看護援助を学ぶ。						
科目目標	1. 薬物療法における看護師の役割と看護の原則について理解する。 2. 薬物療法による対象者の身体や心理的影響など個々の状況に応じた援助を考えることができる。						
回数	テーマ	学習内容			学習形態	備考	
1 ・ 2	1. 対象特性と薬物療法	1) 薬物療法と看護とは 2) 対象特性に応じたアドヒアランス （小児・成人・老年・精神） 3) 薬物の作用点 4) 薬物の体内動態 5) 薬物の相互作用 6) 薬効に影響を与える要因 7) 薬物の有害作用			講義		
3	2. 対象者に応じた自己管理（精神）	1) 抗精神病薬と有害反応			講義 DVD	高橋	
4	3. 対象者に応じた自己管理（小児）	1) こどもの薬物療法 2) こどもの薬物動態と薬用量の決定 3) こどもの薬物療法の留意点 4) 薬物療法を受けるこどもの看護 5) 薬物療法を受けるこどもの家族の看護			講義		
5 ・ 6	4. 対象者に応じた自己管理（老年）	1) 老年者の特徴 2) ポリファーマシーと対応 3) 老年者の薬物動態の特徴 4) 老年者の投与量 5) 老年者の薬物治療の留意点 6) 服薬支援 7) 老年者の薬物療法時の看護			講義		
7 ・ 8	5. 薬物療法における看護師の役割	1) 心不全治療薬と看護 2) 高血圧治療薬と看護 3) 抗がん薬と看護 4) 抗炎症薬と看護 5) 糖尿病治療薬と看護 6) 脂質異常症治療薬と看護			講義		
テキスト		系統看護学講座 小児看護学概論 小児臨床看護学総論 小児看護学① 医学書院 系統看護学講座 精神看護の基礎 精神看護学① 医学書院 系統看護学講座 老年看護学 医学書院 系統看護学講座 成人看護学①⑥ 医学書院					
自己学習への指針		テキストの該当する箇所を読み、予習をして講義に出席すること。					
評価方法		単位認定試験・課題提出・授業態度・出席状況					

分野	専門分野	科目	終末期の看護	単位	1	時間数	15
学年	2年	時期	前期	講師名	中川 奈緒子		
科目概要	人は自分の生を生き、いつか「死」を迎える。しかし、毎日の生活の中で自身の死を意識することはないだろう。人が死に直面したとき、その人らしく人生を生き抜く援助こそが、その人らしい最期に結びつくのである。この科目では、死に直面する対象をあらゆる発達段階から知り、全人的苦痛とはなにか。看護の果たすべき役割はなにかを考えていく。						
科目目標	1. 終末期における対象と家族が抱える全人的苦痛を理解できる。 2. あらゆる発達段階における終末期の特徴を理解できる。 3. 最期までその人らしく生きるための看護援助を理解できる。						
回数	テーマ	学習内容			学習形態		備考
1	緩和ケアとは 緩和ケア病棟とは	緩和ケアとは、緩和ケア病棟とは 緩和ケアにおけるチームアプローチ 緩和ケアにおけるコミュニケーション 事例に基づく緩和ケアの実際			講義 ワーク		外部講師
2							
3	人が「死」を迎えること	終末期とは、終末期の患者の特徴 人間にとっての「死」とは、死生観を考える			講義		
4	終末期にある対象が かかえる痛み	全人的苦痛とは 疼痛コントロールに対する援助			講義 ワーク		
5	老年看護における終末期	人生の最期まで「生」であること エンドオブライフケア			講義		
6	小児看護における終末期	小児における終末期の特徴 小児における死のとりえ方			講義		
7	成人期における終末期 死に直面している 対象への援助とは	終末期における看護問題の視点と援助 対象とその家族への援助（事例を基に 援助を 考える）			ワーク 発表		
8	臨死期の看護 看取りの看護	臨死期における身体的特徴・倫理的課題 死後の処置、グリーフケア アドバンスケアプランニング・代理意思 決定			講義 DVD		
テキスト		系統看護学講座 成人看護学総論、 別巻 緩和ケア 医学書院					
参考書		系統看護学講座 臨床看護総論 医学書院					
自己学習への指針		授業を受けるうえで必要な麻薬についての事前課題や個人ワークでの課題もあります。その後の実習へと繋げ、学び多いものになることを目的としますので主体的に学習していきましょう。					
評価方法		単位認定試験、個人ワーク					

分野	専門分野	科目	統合演習	単位	1	時間数	15
学年	3 年	時期	後期	講師名	中川 奈緒子		
科目概要	多様化する臨床現場に対応できる「実践力」を備えた看護師を目指し、必要な基礎的能力を修得する。既習の知識・技術・倫理観を統合し、対象が必要とする看護を医療チームの一員として実践する。複数対象者の安全と安楽、自立を尊重しながら状況に応じた看護を提供するにはどうすればよいかを考える。 能動的に学ぶ能力を向上し、自己の到達度と課題を明確にして統合実習に臨めるようにする。						
科目目標	1. 複合的な条件を持つ対象者を理解し、予測性、個別性を持ってアセスメントができる 2. 複数対象者の看護の優先順位を考え、行動計画が立案できる 3. 発生した多重課題を考慮し状況に応じた行動計画の修正が行える 4. 自己とメンバーの役割の違いを理解し協働して安全な看護実践ができる 5. 実践した看護に対し多角的な視点から評価ができる 6. 統合演習の到達状況と課題を明確にする						
回数	テーマ	学習内容				学習形態	備考
1	統合演習の概要	1) 統合実習で学ぶこと ①求められる看護師像 ②統合実習の目的・目標 2) 統合演習で目指すこと ①能動的に学ぶ ②自己の達成度と課題の明確化 ③講義の流れ				講義	
2	複合事例の対象アセスメント	1) 複数対象者を受け持つための情報収集 2) 対象者に必要な看護計画立案 3) 優先度の決定				個人ワーク	
3	時間観念の意識と優先順位	4) 1日のスケジュールの立て方と時間管理 5) チームワークとリーダーシップ（役割分担） 1)～5) について個人ワークの後にペアワーク				ペアワーク	
4	計画に基づく看護の実施・評価	学生 A 1) 複合的な条件を持つ対象者の看護実践 2) 多重課題発生時の対応 3) 看護実践の評価、修正				演習	
5						グループワーク	
6	計画に基づく看護の実施・評価	学生 B 1) 複合的な条件を持つ対象者の看護実践 2) 多重課題発生時の対応 3) 看護実践の評価、修正				演習	
7						グループワーク	
8	統合実習に向けて	1) 統合演習の達成状況 2) 自己の課題の明確化				個人ワーク	
テキスト		系統看護学講座 統合 看護管理 看護の統合と実践（医学書院） 系統看護学講座 専門Ⅰ 看護学概論 基礎看護学（医学書院）					
参考書		系統看護学講座 専門Ⅰ 基礎看護技術Ⅱ 基礎看護学③（医学書院）その他					
自己学習への指針		課題に対し能動的に取り組み、対象者や状況を理解した上で演習に臨んでください。					
評価方法		ループリック評価（100％）					

分野	専門分野	科目	看護研究の基礎Ⅰ	単位	1	時間数	15
学年	3年	時期	前期	講師名	太田 静江		
科目概要	看護の質を高めるための研究の基礎・研究のプロセスを学ぶ						
科目目標	1. 看護研究とは何かについて学び、研究に取り組む基本的な姿勢について考えることができる。 2. 看護研究における倫理と文献検索の意義・方法について理解できる。 3. 主に質的研究についての理解を深める。 4. 研究論文の批評の必要性和批評方法について理解できる。 5. 研究の進め方について理解できる。						
回数	テーマ	学習内容			学習形態	備考	
1	ガイダンス 看護研究とは何か	1) 研究とは何か 2) 看護研究とは何か 3) 看護研究は何のために行うのか			講義		
2	看護研究の種類	1) データ収集法の違いによる手法 2) 研究の問いによる手法 3) 研究の意図による手法			講義		
3	看護研究における倫理	1) 研究における倫理規定 2) 研究協力への依頼			講義		
4	文献検索	1) 文献検索の重要性 2) 文献検索の方法 3) 文献の整理			講義 演習	PCによる検索の実際	
5	質的研究について	1) 質的研究と量的研究の違い 2) 質的研究の方法論 3) 質的研究の妥当性 4) 質的研究の質の評価			講義		
6	研究論文批評 (リサーチクリティーク)	1) 研究論文の批評（リサーチクリティーク）とは 2) 論文の評価方法			講義 演習	講師の研究論文を批評する	
7	研究の進め方	1) 研究のプロセス 2) 研究課題の焦点を絞る一仮説を立てる 3) 研究の枠組みを設定する 4) 研究の方法を決定する 5) 研究計画書を書く 6) 実験・調査の実施			講義 演習	プリント配布	
8	まとめ	今、看護の学び（臨床）の中で生まれている素朴な疑問から始めるー看護研究の基礎Ⅱにつなげる			演習		
テキスト		系統看護学講座 別巻 看護研究					
参考書		看護のためのわかりやすいケーススタディの進め方 松本孚 森田夏美 照林社 看護研究のポイント 大口裕矢 秀和システム					
自己学習への指針		予習・復習を行い、テキストを有効に活用する					
評価方法		授業参加態度、試験において総合的に評価					

分野	専門分野	科目	看護研究の基礎Ⅱ	単位	1	時間数	30
学年	4 年	時期	前期	講師名	高橋 はる		
科目概要	看護を多角的な視点から考察し、研究する基礎的な能力を養う。						
科目目標	1. 看護研究におけるケーススタディの位置づけがわかり、目的を明らかにして自分で取り組む動機づけができる。 2. 研究者の感性を活かした質的研究の限界を考慮した計画立案することの意味がわかる。 3. 看護実践の整理・看護の評価の意義と方法がわかる。 4. 看護過程を概観し、研究的にまとめ発表できる。 5. 他者の看護研修発表を聴き、研究批評ができる。						
回数	テーマ	学習内容			学習形態	備考	
1	ケーススタディの進め方	1. ケーススタディとは 2. ケーススタディの意義			講義		
2		3. ケースの選択と探求			講義・個人ワーク		
3		4. 文献の活用 文献検索の意義 5. ケーススタディのテーマの検討			講義・個人ワーク		
4		6. 研究計画書とは 7. 研究計画書の作成			講義・個人ワーク		
5		8. 論文の構成 9. 発表の仕方			講義		
6	研究計画	テーマの決定 研究計画書の修正			個人ワーク		
7	研究の実践	計画的に研究を実施する			演習		
8							
9							
10	抄録	抄録の作成			演習		
11	研究発表準備	発表の資料・原稿を作成する			演習		
12		研究発表の準備					
13	研究発表・聴講	学生主体の研究発表会の実施			発表・聴講		
14							
15							
テキスト		系統看護学講座 別巻 看護研究					
参考書		看護のためのわかりやすいケーススタディの進め方 松本孚 森田夏美 照林社 看護研究のポイント 大口裕矢 秀和システム					
自己学習への指針		テキストを事前に読み込んで授業に臨むこと					
評価方法		研究への取り組みおよび研究発表の参加態度 ケーススタディの内容で総合的に評価					

分野	専門分野	科目	国際看護と災害看護	単位	1	時間数	30
学年	3年	時期	後期	講師名	益川順子・佐藤弘子		
科目概要	自国の看護の対象の枠を超え、諸外国の社会、経済、教育、文化、宗教、福祉、医療、疾病構造など、看護に必要な国際間で協力すべき健康上の問題及び、世界共通の課題を学び、国際看護の必要性を理解すると共に、国際保健医療協力の実践を学ぶ。 災害の事例等から実際に自身に役立つ基礎的知識を身につけ、災害に関する現状や課題を理解するとともに災害における看護活動について学ぶ。						
科目目標	1－1 国際看護学の概念が理解できる。 1－2 看護のグローバル化の視点を理解できる。 1－3 世界の人々の健康に関わる諸要因、健康阻害因子と社会システムを理解する。 1－4 保健医療と国際協力の実践を理解する。 2－1 災害と災害看護の基礎的知識について説明できる。 2－2 災害発生時の社会の対応、支援体制、個人の備えについて説明できる。 2－3 災害が人々の生命や生活に及ぼす影響について説明できる。 2－4 災害時の看護活動について説明できる。						
回数	テーマ	学習内容			学習形態	備考	
1	ガイダンス	世界の不健康事情の多様性 多様性の理解と国際看護学の意義 国際協力における看護の役割			動画視聴 講義		
2	世界の看護の動向	日本における国際看護の現状： ・グローバル化に向けた病院の取り組み （USA, UK, Australia, Russia, South America, Africa, Islamic Countries）			動画視聴 講義		
3	発展途上国医療の現状と実際 グローバルヘルスと諸問題①	グローバルヘルスと諸問題① （貧困：母子保健・小児保健事情と諸問題〈乳幼児死亡率、ストリートチルドレン〉）			動画視聴 講義、 ディスカッション		
4	グローバスヘルスと諸問題②③	グローバルヘルスと諸問題② （貧困：母子保健・小児保健事情と諸問題〈エイズ、結核、マラリア、急性呼吸器感染症等〉） グローバルヘルスと諸問題③ （貧困：感染症、世界の人口問題）			動画視聴 講義、 リアクションペーパー		
5	グローバルヘルスと諸問題④	グローバルヘルスと諸問題④ （貧困：母子保健・小児保健事情と諸問題〈児童労働〉） グローバリゼーション看護			動画視聴 講義		
6	グローバルヘルスと国際機関	グローバルヘルスと国際機関、国際救援活動 （ICN,WHO,UNICEF,UNFPA,World Bank,JICA）			動画視聴 講義、ディスカッション		
7	グローバルヘルスと看護の展望と可能性 （まとめ）	国際救援医療事情の実際と看護 ・人災と医療事情 ・先進諸国の医療事情の実際と看護（米国のER等） ・我が国における国際看護の役割と課題			動画視聴 講義、 リアクションペーパー		
8	災害と災害看護の基礎的知識	1. 災害と災害看護の歴史 2. 災害と災害看護の定義 3. 災害の種類と疾病構造 4. 災害サイクル 5. 災害事例からの考察			講義	P4-11 P20-33 P84-86	
9							

10	災害発生時の 社会の対 応, 支援体制, 個人の備え	1. 災害に関連する制度 2. 災害情報伝達体制 3. 国内の災害支援体制 4. 国際的な災害支援体制 5. 個人の備え, ボランティア	講義	P53-65 P70-84 P146-151
11				
12	災害が人々の 生命や生活に 及ぼす影響	1. 災害時の地域アセスメント 2. 「要配慮者」への支援 3. 被災者と援助者の心理 4. スフィア・プロジェクトと避難所運営	講義	P12-17 P34-40 P86-93 P117-141 P177-192
13				
14	災害時の 看護活動	1. 災害各期における看護活動 2. 災害時に活用できる社会資源 3. 地域住民との連携 4. 災害時に必要な技術 5. 病院における災害看護 6. マスガザリング 災害とNBC 災害 7. 地域における災害看護活動	講義	P40-53 P65-69 P93-117 P141-146 P151-176 P198-240
15				
テキスト		系統看護学講座 災害看護学・国際看護学 医学書院		
参考書		日本赤十字社事業局看護部編『災害看護学・国際看護学』医学書院, 随時レジュメ配布予定		
自己学習への 指針		事前にテキストを読んでおくとい良いでしょう。 日頃からニュースや新聞等で海外の健康諸問題に関連する記事に関心を持たれるとい 良いでしょう。 各回の事前に講義資料を配布しますので、講義開始までに読んでください。		
評価方法		単位認定試験 100%		

7	組織で取り組む 看護活動	1.組織の構造と機能 1)組織とは何か 2)組織と個人のかかわり 3)集団とチーム 4)分業と協働	講義	
8		2.サービスのマネジメント 1)看護サービスのマネジメント 2)ヒト・モノ・カネのマネジメント 3)情報と時間のマネジメント 4)非常時のマネジメント	講義 個人ワー ク	
9	看護の質を向上 させるための取 り組み	1.看護組織の活動と倫理 1)看護における倫理とコンプライアンス	講義	
10		2.医療安全 1)ヒューマンエラーとインシデント・医療安全委員会 3.医療、看護の質改善の取り組み 1)医療、看護の質の評価 2)EBP NDNQI アウトカム評価ツール 3)DINQL 4)組織改革	講義 グループ ワーク	
11	業務のマネジメ ントとは	1.業務とは何か 2.患者にかかわる業務とは 3.組織にかかわる業務とは 4.業務計画を立案してみよう	講義 個人ワー ク	
12		5.情報の共有 6.多重課題における対処 7.夜間の業務マネジメント 夜間の業務計画を考えよう 8.業務上の情報の管理	講義 グループ ワーク	・病院 (組織) を作る
13	セルフマネジメ ント、看護専門職 とキャリア	1.ウェルビーイングとヘルスリテラシー 1)メンタルヘルスと体の健康 2)時間の管理	発表	
14		2.専門職とキャリア 1)社会人基礎力 2)専門職としてのキャリアデザインを考えよう 3)ワークエンゲージメントとバーンアウト 4)ワーク・ライフ・バランス	講義 個人ワー ク	
15	看護と経営、看護 現場に影響を与 える制度と法律	1.看護職の生涯学習 1)看護基礎教育・継続教育 2.看護現場に影響を与える制度と法律 3.保健医療福祉施策と動向 4.看護の関連機関	講義	
テキスト		系統看護学講座、統合分野、看護管理 医学書院		
参考書		ナーシンググラフィカ 看護管理		
自己学習への 指針		看護管理は全ての看護職が行うものであることを踏まえて、看護管理の視点から既習の実習 場面の振り返りをする。		
評価方法		課題提出・講義参加態度・単位認定試験を含む総合評価		

分野	専門分野	科目	看護管理Ⅱ	単位	1	時間数	15
学年	4年	時期	前期	講師名	高橋 はる		
科目概要	「医療安全」の歴史から現在までの取り組みを知り、人間特性から生じるヒューマンエラー、医療事故の防止対策には何があるのかを学ぶ。 医療の安全に向けた国や組織活動と法的責任を学び、医療従事者としての責務を自覚する。						
科目目標	医療安全とその安全対策の重要性について理解できる。 人間の特性に基づくエラー(ヒューマンエラー)、医療事故の防止対策の概略が分かる。 事故発生時の対応と法的責任について理解できる。 事故に遭遇した患者と家族への対応の在り方を考える。						
回数	テーマ	学習内容				学習形態	備考
1	医療安全の基本的な考え方	科目オリエンテーション 医療安全と医療事故の定義 医療安全の起源・経緯 国の医療安全対策 医療事故調査制度				講義	
2	事故発生のメカニズムと医療安全対策	事故発生のメカニズム ヒューマンマンエラーの特徴 人間特性と環境からみる事故発生のメカニズム 工学的視点から見る事故対策 組織の医療安全対策				講義	
3	チーム・組織としての医療安全対策	TeamSTEPPS による医療安全対策 一情報伝達を確実にするコミュニケーションツール SBAR を中心にー チーム医療の発展と課題 組織における安全文化の醸成 事故報告の目的 事故の把握と事故分析				講義	
4	危険の種類別にみた医療事故と安全対策（1）	看護業務に関連する医療事故と安全対策 ・患者取り違え					

テキスト	ナーシング・グラフィカ 看護の統合と実践② 医療安全 メディカ出版
参考書	必要に応じて講義中にその都度提示する
自己学習への 指針	臨地実習場面における「ヒヤリハット」「インシデント・アクシデント」について、 事例を想起し自分の考えをまとめておく
評価方法	学習態度、課題・レポート、単位認定試験(60%)